

清末小説から 120

2016.1.1

- いくたびかの阿英目録12.....樽本照雄 1
陳家麟傳記及其翻譯小説《鮑亦登偵探案》等原著鑑定研究.....古 二 徳 5
漢訳『奇獄』の謎 2 問題解決篇.....沢本香子25
林纾文化研究(データ)庫的建立与发展困境新探.....苏 建新 刘 垣32
清末小説から37

本年もよろしくお願いたします 現在公開しています『清末民初小説目録X(エックス)』は書籍形式です。以前、説明と本文の2ファイルしていたのを統合したものです。お役に立てばうれし

清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8 番4-202 樽本照雄方

同じ誤りをおかすとは奇妙な偶然だ。以後はそれを踏襲する目録がほとんどだ。これについては、本稿の注16で説明した。ここでは省略する。次のような例は、どうだろうか。

いくたびかの阿英目録12

[阿英176]漢民拔 且 大町芳衛著。丁錦
訳。光緒二十九(1903)文明書局刊。

樽 本 照 雄

劉永文編『晚清小説目録』(上海世紀出版股份有限公司、上海古籍出版社2008.11。以下、劉晚目録*³⁴) 256頁では、書名は上のままに、著者を「大町芳衛」と誤記している。

該書は、大町芳衛(号は桂月、1869-1925)の著作を漢訳したものらしい。

大町の原作名が「漢民拔」なのか。阿英の記述だけでは、詳細が不明だ。

明治期の著作には、西洋もののカタカナを日本語音の漢字にあてることもある。実際に見なければわからない。可能性としては、原文日本語を翻訳して「漢民拔」の3文字をあてた。これで意味があるような気もするのだが、はっきりしない。

誤植について ハンニバルのばあい

なぜ誤っているのか原因がはっきりしない。ただの誤植にすぎず、訂正されなかったばあいも含まれるだろう。作品そのものを見ることができなければ、のちの研究者は阿英目録に記述されたままを引用して誤ることになる。

『釘子記』の訳者については、周越然、阿英らが、たぶん誤記したのだろう。ふたりともに

現代中国音で発音してみる。音訳だろうから声調を無視し、ピンイン表記をするまでもない。ハンミンパ。数回くりかえす。わかった。「ハンニバル」に違いない。

原書は、大町芳衛『ハンニバル』(世界歴史譚第5編、博文館1899.6.29)だ。古書店から入手したので表紙と奥付を示す。



大町芳衛『ハンニバル』 表紙、奥付

ハンニバルを音訳して漢訳者が独自に「漢尼拔」と漢字をあてた。最初は、そう思った。しかし、日本語原書の奥付にそのままの表示があるのではないか。世界歴史譚第1編「釈迦」から「孔子」「耶穌」とつづく。それぞれにルビがつけられている。第4編はない。第5編「漢尼拔」は、ルビが「はんにばる」だ。漢訳は、奥付に見える原文を採用したとわかる。

すると、阿英が記した「漢民拔」が間違いだ。「尼」を「民」と見誤った。単なる誤植かも知れない。校正がうまくいかなかったか。『漢尼拔』という書籍ならば、今ではウェブを検索すればすぐに出てくる。

上記を書いたあとだ。前出の陳大康『中国近代小説編年史』 679頁に記述があるのにぶつかった。

そこには正しく「漢尼拔」とある。以前の『編年』113頁では「漢民拔」と誤っていたのを訂正したらしい。

「尼」を「民」に誤植した阿英目録の間違いは、もう1ヵ所ある。

[阿英126]青酸毒 英 格理民著。光緒三十四年(1908) 商務印書館訳印。

ここの格理民は、格理尼を誤植したらしい。

阿英目録からはじまって、のちのちまで誤記が引き継がれた。理由のひとつはわからないこともない。日本の書物は、中国で見ることがむづかしいのだろう。だが、現在は、ウェブを利用することによってその空白は埋められつつある。

年刊研究誌『清末小説』を編集していたころだ(2012年第35号で終刊)。

ある中国人研究者から、日本書籍の漢訳を論じた論文の投稿があった。読めば、明治時期に刊行された日本書籍を使っている。それも複数冊を参照し、本文を引用しているのが珍しい。日本に留学している中国人なら、普通に行なっ

ていることだ。図書館に行けば、書物を手にすることができるだろう。だが、中国大陸で明治期の日本書籍をてがるに利用できるとは思わない。だから、珍しいと感じた。

ところが、文章を読むとどこか違和感がある。

明治時代の日本語であるのに促音を小さく「っ」と表記している。見誤りか書き間違いだろう。あるいはその中国人に日本語の知識が少ない。引用箇所が多いから、実物を見ているのはたしかだ。調べてみてすぐにわかった。なんのことはない、ウェブで自由に閲覧できる日本の国立国会図書館近代デジタルライブラリーを利用しているのだった。本人にもそれを確認した。資料源を隠さなくてもいいではないか。他人による追跡調査を受け入れる用意がないと見える。あるいは、単に出典の書き方を教えられていないだけか。論拠の信頼性にかかわる、という認識もないらしい。また、ほかの研究者に役立つかもしれない、という親切心もない。明記してもらった。

研究環境の大きな変化だ、とつくづく感じる。

ちかごろの電字図書館

すこし横道にそれる。

日本の国立国会図書館近代デジタルライブラリーは、利用するのになんの制限もない。利用登録も必要ではない。電腦さえあれば、世界のどこにいても閲覧することができる。もちろん、中国からの閲覧も自由だ。さらに印刷もできる。欧米にも類似の電字書庫は以前から用意されている。

中国で運営している電字図書館は、そうはいかない。(研究機関単位で利用する有料データベース(本稿では略して情報倉庫とする)は、本稿では対象にしていない。大学にいたときも無縁だった。辞職した現在は、なおさら関係がない。あくまでも個人で利用できる範囲内に限っている)

中国のあるものは、利用登録をするとき住所

欄を設定している。しかも選択肢は中国国内に限定する。なんの意味があるというのだろう。外国人は排除するという考えだ。

もともどもどれば、図書館の所蔵雑誌書籍を見るだけなのに、なぜ登録(料金ではない)が必要なのか。つい日本の国立国会図書館などの公共機関と比較してしまう。条件が異なるから一概に言うことはできない。中国では組織の維持と情報管理のためなのか、と気をまわす。奉仕の精神を期待する私の方が悪いにきまっている。

あるいは課金制度を採用する組織もある。特別な図書を閲覧するのにお金を支払うのは、上海図書館でもやっていた。貴重書を保護するために必要だという説明だ。マイクロフィルムを利用するにも料金を別に請求された。こちらは手数料か。受益者負担は、日本では50年前の用語ではないか。タダのものがあるわけがない。好意的にいえばそうだ。図書館組織の維持運営のための資金が不足しているらしい。

日本でも類似のウェブサイトはある。すべての情報は基本的に有料だと考えるのがよい。利用者が承知していれば問題はない。

「中国知網 cnki」は、中国にある研究文献情報倉庫のひとつだ。学術論文、博士論文、碩士論文を収録する。電腦を通じて論文を取り込む仕組みになっている。だが、ウェブサイトのそれには、どう支払うのが最初はわからなかった。試行錯誤して中国専用のクレジット(信用)カードが利用できるかと理解する。世界で流通する著名な信用カードは、中国では信用がないらしい。今度は、銀聯カードを取得する方法で立ち止まる。後日調べたら日本の会社が発行している。手続きをへて該当カードを入手した。ところが、それが使用できるかどうかは、また別問題だった。

情報倉庫のなかの文献を選択し、料金支払い画面に移る。世界中どこでも、操作は同じだ。間違えようがない。銀聯の番号を入力する。中国のそれは、そこで中断する。信用カードの番

号を何度打ち込んでも、受付を拒否するのだ。料金を払うというのに、それを遮断する会社があるとは思ひもしなかった。その裏にはカラクリがあるのではないかと私は疑ったのだった。電腦のシステムにあらかじめ設定しなければ、納金拒否ができるわけがない。日本在住の個人からは銀聯カードであろうとも受け付けられないように細工をしているのか。銀聯カードを説明した小さな文字の注意書きを見る。なんと、通信販売には利用できないとある。はやく言って欲しい。むだな労力と時間を使ったものだ。

それで万事休す、か。そんなことはない。求めることをあきらめなければ、必ず打開の道はある。

別の電字図書館[CADAL]では、登録ができて閲覧をはじめた。しばらくすると、その担当者らしき人物から、見てばかりいないで何か言え、書け、と指示がある。なんのこともやら。意味が不明だ。それにしても、個々に管理して発言できるほど人員が豊富なのか、暇なのか。なるほどウェブサイト監視とはこういうことをいうのだな。

ふと1984年の中国天津滞在中に経験したことを思い出した。留学生棟の電気コンセントが3種類を取りそろえて設置してある。形が異なる。別のいいかたをすれば、多様性とむ。中国には、ないものはない。すべて揃っている。ウソではない。外見に違いはない。コンセントはコンセントだ。だが、使ってみると規格が異なる、品質が違う。長期滞在の予定だったから、どうしても不便だ。そのさき日常生活を普通に送ることができるのか不安に感じる。コンセントの形状に合ったプラグを購入するために街の中心にある勤業場デパートに行った。電気機器販売所では老年の男性店員が、応対してくれる。天津のあの留学生棟は、規格が違っているんだ、と事情にくわしい。多くの留学生から同じ要求があったとわかる。なるほど、コンセントの形を統一する手間をはぶき、末端の店員にも仕事

がまわる仕組みになっているらしい(まさか)。最後に、なにやら分厚い紙のたばを出してきた。これに、店員の対応はすばらしいです、と「感謝のことば」を書け、という。隣にいた若い女性店員は、またなのね、いつものことなのよ、と説明する。外国人留学生は断わるわけにもいかなない。その老齢従業員は、集めた「感謝のことば」を上級に提出し、職場の「模範」として表彰されるのだそうだ。顧客の要望を解決したのちに、彼が独自でおこなう自助努力である。厚かましい、と笑うべきではない。

場所が違えば対応も異なる。そういう連想だ。現在はウェブでつながっている。だが、内容は個々で別々というだけのこと。

ウェブ上で電字版の書籍が提供されているのは、ありがたい。だが、中国のあるもの[CADAL]は、恩恵を与えてやっている、という態度があからさまに感じられる。データの複写、印刷を許さない。そのうち突然、お前には見せてやらない、と接続を拒否されてしまった。わけがわからない。大国中国の高度な知識を有する人々がやる種類の行為だとも思えないのだが。見せてやっている、そういう意識なのだ。それが当たり前のところでは、疑問もわからないだろう。

奇妙なことに、そのサイトで閲覧できる書籍のいくつかを、複写製本して販売している組織が、別に存在している。偶然の一致なのだろうか。商売のほうは抜け目がない。

そういう中国の実状を、私はのべているだけ。非難しているわけではない。書籍を見る可能性がすこしでもある。それだけでうれしい。中国には全国規模の古書店網孔夫子旧書網もある。昔とは較べものにならないくらい便利になった。よい方向への変化だから歓迎する。 罫

【注】

34) 劉晩目録というのは、劉編『民国小説目録(1912-1920)』(上海世紀出版股份有限公司、上海古籍出版

社2011.12。劉民目録)と区別するためだ。劉晚目録については、書評を書いた。樽本「清末小説目録の最新成果 劉永文編『晚清小説目録』について」『東方』2009年5月号2009.5.5、2-7頁。要旨：劉永文編『晚清小説目録』についての書評。収録作品の全項目を点検した。新聞小説部分は詳細で役に立つ。ただし、単行本小説部分は樽本の『新編増補清末民初小説目録』を不完全に複写しただけ。これには少し驚いた。劉永文は「前言」において樽本の目録が不十分で誤りが多いと非難しているからだ。それにもかかわらず、単行本部門について樽目録を写して知らん顔をするのは手抜きだ、と私は指摘した。



陳家麟傳記及其翻譯小説《鮑亦登偵探案》
等原著鑑定研究

古 二 德



内容提要 儘管陳家麟與林紓合譯短篇小説數量巨多，可是對於其履歷所知甚少，而且非林譯作品未得任何關注。本文深入探討陳家麟人生，鑑定非林譯作品的原著並探究被忽略的陳譯。

關鍵詞 陳家麟 傳記 翻譯小説 鮑亦登偵探案

陳家麟傳記

陳家麟，字紱卿，號杜蘅，1880年（光緒六年庚辰）生於直隸靜海縣（今屬天津市）。雖然陳家麟為與林紓合譯短篇小説最多的口譯者，但在中國近代文學史領域內他卻是一位頗未受關注的文人。現今對陳家麟的許多認識來自民國21年刊於《河南大學週刊》的文學教授略歷：

陳家麟，字紱卿，五十三歲，河北靜海縣人，留學英國牛津大學文學博士，美國康奈爾大學法學博士，曾任北京師範大學教授，美國各大學講座，外交教育兩部派充華盛頓會議代表，外交部特派湖北山東交涉員，記名全權公使，譯述歐洲名家著作百餘種，風行海內，現任本校文學院教授。（插圖一）¹

樊蔭南亦記錄陳家麟於“牛津、康乃爾及柏

清末民初小説目録 X

Catalog of late Qing and early Republican fiction. X

公 開 中

清末民初小説目録 X (エックス)

Catalog of late Qing and early Republican fiction. X

説明+本文ファイル qmbookx.pdf 23.10MB

ダウンロードできます。You can download.

清末小説研究会 <http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto>

¹ 〈本學期新聘教授略歷〉，《河南大學週刊》2期，1932年9月24日，頁3。

林等大學肄業”。²此外，我們祇知道林譯的陳家麟。不過在1907年左右他為謀生開始正經地與商務印書館合作而翻譯西方小說之前，陳家麟曾踏著嚴復的足跡前進。

19世紀70年代，第二次鴉片戰爭（1856-1860）大清朝戰敗後，全國各地的海軍學院安排高才生赴英國倫敦學習西方航海技術，回國後進北洋水師學堂。嚴復（1854-1921），字又陵，後字幾道，福建侯官人，1871年福建航政學堂畢業，1877年與14位同學赴英國朴茨茅斯（Portsmouth）學習航海技術，12位同學不久轉入英國格林威治（Greenwich）皇家海軍學院當獨學習（private student），其餘的3位同學轉到柏勒豐號（Bellephon）和阿金庫爾號（Agincourt）。1879年嚴復畢業後即任天津北洋水師學堂總教習。³

天津北洋水師學堂續福建航政學堂而建，由陳家麟的同鄉李鴻章（1823-1901）創辦於1880年8月22日。嚴復仍任總教習時，陳家麟加入水師學堂，1894年畢業後，⁴赴“叩林海軍大學”，後1900年回國。⁵該院或許為格林威治海軍學院

的舊譯名，⁶不過該學院1998年已關閉，學院記錄今保存於英國國家檔案館裡，1899至1900年學生記錄不確定是否仍有被保存，筆者無法查明陳家麟的信息記錄。

自英國畢業回國之後，陳家麟抵達一座變幻莫測的天津市。1900年6月義和團進攻天津租界，摧毀北洋水師學堂。像嚴復如此鼎鼎大名的學者立刻離津，不得已南移。陳家麟當時下落不明。《袁世凱史料彙刊》第6冊內有〈言官函託公事請飭審辦摺〉一份，奏於光緒30年7月19日（1904年8月29日），其中出現一位有經濟困難的“商民陳家麟”，身份不詳。⁷

陳家麟何時始任商務印書館譯者不詳。他最早的一部翻譯小說《海棠魂》出版於1908年7月，不過兩月後出版的《博徒別傳》亦含〈序〉，該序寫於1908年6月。此外，1907年7月28日林紓為譯《愛國二童子傳》寫〈達旨〉，其中列舉當時的口譯為“魏生易。曾生宗羣。陳生杜蘅。李生世中”（頁4）。陳杜蘅身份不詳，韓洪舉和李偉認為指陳家麟，⁸不過陳林同譯的第一部小說

² 樊蔭南，當代中國四千人錄當代中國四千人錄，波文書局，香港，1978年，頁284。

³ Harry Dickinson, *Wisdom and War. The Royal Naval College Greenwich, 1873-1998*, Ashgate, 奧爾德肖特，2012年，頁89；Timur Tatlioglu, 〈NA Research on Chinese Naval Students〉，2014年1月10日，頁1。筆者感激格林威治基金會西沃恩·克拉克（Sioban Clark）提供嚴復與格林威治海軍學院有關的資料。根據 Edward J. M. Rhoads, 此年共有26位中國學生赴英國格林威治學習西方航海技術（參 *Stepping forth into the World. The Chinese Educational Mission to the United States, 1872-81*, Hong Kong University Press, 香港，2011年，頁198）。

⁴ 請參美國康奈爾大學編輯《Cornell University Official Publication: The Register 1920-1921》12卷第17號，1921年9月1日，頁62、74。

⁵ 徐友春，《民國人物大辭典》，河北人民出版社，石家莊，1991年，頁1044。陳家麟基本傳記資料根據此書。民國同時亦有外交官陳家麟，1887年於東京出版

《東槎聞見錄》，與林紓口譯者不一。請參佐藤三郎，〈明治期に日本を訪れた中国人の日本観察（6）明治20年、陳家麟の「東槎聞見録」〉，《藝林》52卷第2號，2003年10月，頁104至112。

⁶ 根據《民國人物大辭典》，頁1662，嚴復“轉入格林尼次海軍大學”，但陳家麟“人（訂正：入）叩林海軍大學”。當時英國未有海軍大學，而且北洋水師學堂祇與格林尼次海軍學院有關。

⁷ 〈言官函託公事請飭審辦摺〉，載沈雲龍主編，《袁世凱史料彙刊》，文海出版社，台北，1966年，第6冊，頁589至591。清末民初有許多人名為“陳家麟”：除前述的外交官陳家麟之外，天津檔案館保存關於兩位陳家麟的9份官方文件，一位為1943年8月開始面臨法律問題的天津“執事人”，於1908年左右出生（參考號 J0044-2-074613、076539、083477、100465、100813、129445、132731以及 J0218-4-006101）；另一位為1947年8月7日“被水淹身死”的8歲男孩，天津人（參考號 J0044-2-16921）。

⁸ 韓洪舉，《林譯小說研究：兼論林紓自撰小說與傳奇》，中國社火科學出版社，北京，2005年7月，頁

《璣司刺虎記》，此序寫於1909年1月1日。如果我們假設杜蘅指陳家麟的號，1907年他與林紓已始譯《璣司刺虎記》，一直到林紓逝世，陳家麟共合著至少75種林譯。除此林譯，陳家麟還與他人合作小說翻譯，而且他亦有一段頗為傳奇的學術起落，不過終究湮滅無聞。

身在日本的梁啟超，1912年10月8日回國定居北京，後“大覺不便”而決定返抵天津市。⁹12月1日《庸言》政論雜誌由在日租界旭街17號庸言報館出版，梁啟超擔任主編，其中撰述者包括嚴復、林紓、魏易、陳家麟等，不過林陳合譯西洋小說祇有《古鬼遺金記》一種，英國哈葛得著，刊於《庸言》1卷第1期至第11期。

20世紀初年陳家麟終究遷移至北京。按照美國康奈爾大學的學生名錄，其家位於“Yu Chien Hu Tong Peking China”，筆者認為此名為北京榆錢胡同，¹⁰後稱為南榆錢胡同，曾介於西城區鬪才胡同與什坊小街之間，曾與林紓“鄰毗”。¹¹此地2003年已被拆除，後建豐彙園，附近祇保存1926年建於跨堂胡同的篆刻家齊白石故居（插圖二）。



插圖一：陳家麟略歷（1932年）



插圖二：北京榆錢胡同（1948年《北平城內全圖》）

當陳家麟受聘於商務印書館擔任譯者時候，還有任教工作。根據陶藝家李奇聞（Bernard Leach, 1887-1979，香港籍）的遊記，1914年訪問北京時，他認識了衛西琴博士（Dr. Alfred Daniel Westharp, 1882/3-?）的一位好友，譯者，當時任教師，名叫陳紱卿，即陳家麟的字：

I talked a great deal with Dr. Westharp, went on explorations often alone, and came to know a school-teacher friend of his, Chen Fu-ching, who had translated most of Dickens for an appreciative Chinese public. [...]

By contrast with this popular music, I recall a dinner in spring, on the roof of a Peking restaurant with Dr. Westharp and our friend Chen Fu-ching, and a player of the one

44; 李偉，《中國近代翻譯史》，齊魯書社，濟南，2005年8月，頁254。

⁹ 丁文江、趙豐田編，《梁任公先生年譜長編（初稿）》，中華書局，北京，2010年，頁342。

¹⁰ 參《Cornell University Alumni Directory》13卷第12號，1922年，頁56。當時歐美使用韋氏拼音，不標誌送氣音，故“Yu Chian”能指“Yu Qian”或“You Jian”。

¹¹ 哈葛德著，林紓、陳家麟合譯，《古鬼遺金記》，刊於《庸言》1卷第1號，1912年12月1日，頁122，原本缺乏連續頁碼。當時林紓寓所不詳。請參古二德，〈林紓冤居事件：“琴南移寓芝麻街”是否指林琴南？〉，《清末小說から》119號，2015年10月，頁42至46。

ancient instrument still in use, a seven-stringed horizontal lute, quiet by comparison.¹²

我與衛西琴博士聊了許久，經常一人遊覽（北京），還遇到他的一個教師朋友，名叫陳絨卿，為中國書迷翻譯了大多數狄更斯作品。 [...]

與流行音樂一比，我回想起了某頓春天的晚餐，在北京一家飯店的露台與衛西琴博士及我們的好友陳絨卿，還有一位仍用古老樂器的彈奏者，一把橫放着的七弦琴，相比更加安靜。

李奇聞所謂的“教師”是否即《河南大學週刊》教授略歷中的“北京師範大學教授”，無法確定，但當時北京師範大學名為北京高等師範學校，故他已任高等師範學校教師未嘗不可。此時由《中華小說界》於1916年刊陳家麟與陳大鏡合寫怪異神怪小說，共有4種：《水神》、《孽龍七舌記》、《烏鴉公主》、《失果奇緣》。

1918年3月陳家麟以絨卿之名發表〈論富強國家之道在實業與人心〉一篇文言短文（刊於山西《實業學社雜誌》1卷第1期，頁7至9），主張“國家之富強根本於實業”、“實業乃人生命之本源”，面臨一場亂世軍閥時代的陳家麟亦渴望政府能復辟而盡勤政、民眾能清醒而植下心人的種子，國民同心同德，方可救苦難落後的中國。此年底中國教育群體亦始向歐美各國學制求助，而1919年陳家麟似乎任歐美教育調查委員，¹³後申請加入美國康奈爾大學。

1920年暮春陳家麟抵達此所大學，苦學一年英語以及亞洲歷史，1921年獲取文學碩士學位：

GRADUATE STUDENTS, 1920-1921

¹² Bernard Leach, *Beyond East and West: Memoirs, Portraits and Essays*, Faber, 倫敦, 1978年, 頁89、94。

¹³ 參《民國人物大辭典》，頁1044。

[...]

Chen, Chia Lin, B.A. (Tientsin Naval, 1894)

Peking, China

English, Oriental History. (Northup,

Schmidt)

A.M.

[...]

STUDENTS REGISTERED FOR
GRADUATE WORK DURING THE
SUMMER OF 1920

[...]

Chen, Chia Lin, degree at Tientsin Naval

College

Peking, China

English, Oriental History. (Northup,

Schmidt)

A.M.¹⁴

1920年暑期註冊研究生

[...]

陳家麟，天津水師學堂學位 中國北京

英語，亞洲歷史。（諾瑟普、施密特教

授）

文科碩士

[...]

1920至1921年研究生

[...]

陳家麟，文學士（天津水師學堂，1894

年）

中國北京

英語，亞洲歷史。（諾瑟普、施密特

教授）

文科碩士

諾瑟普指 Clark Sutherland Northrup（1872年7月12日-1952年5月18日），維多利亞時代文學專家，1893年任紐約卡斯卡迪爾學校英語、古希臘語教師，1895至1940年任康奈爾大學英語教授。

¹⁴ 美國康奈爾大學編輯《Cornell University Official Publication: The Register 1920-1921》12卷第17號，1921年9月1日，頁62、74。

¹⁵施密特指 Nathaniel Schmidt (1862年5月22日-1939年6月29日), 瑞典胡迪克斯瓦爾人, 美國浸禮會牧師, 亞述專家, 1896年任康奈爾大學閃族語以及亞洲歷史, 專攻巴比倫、亞述、波斯東亞歷史。¹⁶除此, 陳家麟亦拜訪沙木森教授 (Martin Wright Sampson, 1866年9月7日-1930年8月22日), 英語系主任。¹⁷陳家麟祇讀暑期課程, 專門研習中國古典戲劇, 由英語教授諾瑟普指教。他思索不止於如何以文學改良中國社會, 尚與康奈爾大學倫理社團、美洲中國留學生會合作。¹⁸此年5月18日晚上8點鐘於康奈爾大學 Barnes 會堂上發表題為〈中國古典戲劇道德特性〉(Moral Aspects of Chinese Drama, 插圖三)演說, 不存。¹⁹

陳家麟繼續研究西東戲劇, 1921年1月寫完碩士論文, 2月9日文學碩士畢業。²⁰此題為《中國古典戲劇研究》(Studies in the Chinese Drama, 插圖四), 分為兩部分:

- 一. 從中國人觀點討論哈姆雷特 (共有27頁, 照片1張)
- 二. 中國古典史綱 (共有61頁, 照片9張)

¹⁵ 〈Professor Emeritus Northrup Dies, Taught English Here for 45 Years〉, 《Cornell Daily Sun》68卷第178號, 1952年5月20日, 頁2。

¹⁶ C. Wade Meade, *Road to Babylon: Development of U.S. Assyriology*, Brill, 荷蘭, 1974年, 頁42; 〈Nathaniel Schmidt in Memoriam〉, 《Bulletin of the American Schools of Oriental Research》70期, 1939年, 頁7至8。

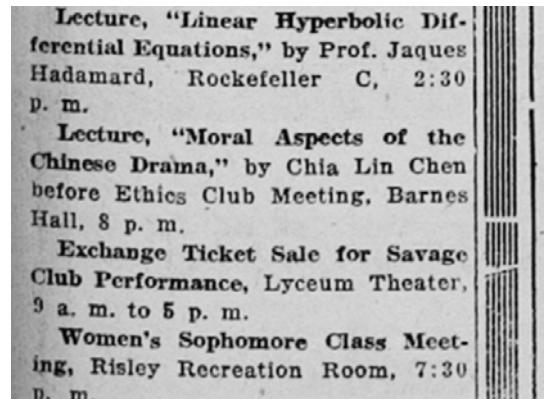
¹⁷ 〈研究英文當審音及成誦〉, 刊於《北京高師周刊》193期, 1923年4月15日, 頁8。

¹⁸ 《The Chinese Students' Monthly》16期, 1920年11月至1921年6月, 頁145。

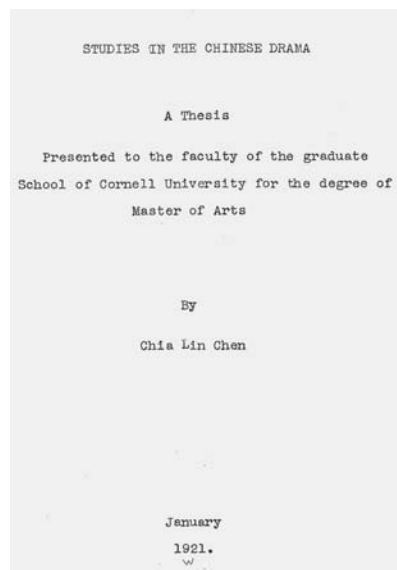
¹⁹ 《The Cornell Alumni News》22卷第34號, 1920年5月27日, 頁429; 〈Calendar. Today〉, 《The Cornell Daily Sun》40卷第168號, 1920年5月18日, 頁5。

²⁰ 《Cornell University Official Publication: The Register 1920-1921》12卷第17期, 1921年9月1日, 頁278。

論文不僅提供西東戲劇對比分析及英國劇作家莎士比亞與清末新戲劇之間的相似之處, 亦主張戲劇教育重要性 (第2冊, 頁46至47)。論文包括許多中國古典戲劇照片, 至少有一張為陳家麟自身 (插圖五)。根據上述證據可以認定, 雖然《河南大學週刊》教授略歷提到“美國康奈爾大學法學博士”, 但陳家麟乃是“文學碩士”。相似地, 民國初年的牛津大學生記錄不存任何“文學博士”陳家麟。²¹



插圖三：陳家麟〈中國古典戲劇道德特性〉演說廣告



插圖四：陳家麟康奈爾大學碩士論文封面

²¹ 牛津大學檔案助理 Marta Lonza 私人通信, 2015年4月23日。



插圖五：陳家麟照片

離開美國後，陳家麟似乎回國任北京師範大學教師。該校教工名冊中87卷號列出他的名字，“1921-1922年北師教、職、員一覽表”，²²但1922年4月赴柏林繼續研究，3日早上到柏林 Falk-Realgymnasium 中學堂參觀法英文班（1938年改名為 Falk-Schule，今已關閉，在此處新創建 Grundschule Tiergarten-Süd 小學堂）。²³1922年7月上旬離德赴法，7日到巴黎，次晚買票於國立巴黎歌劇團觀賞《浮士德》，幾日過後可能亦於法蘭西笑劇園（Comédie-Française）、歐的昂（Théâtre de l'Odéon）欣賞莫里哀（Molière）、拉辛（Jean Racine）以及雨果（Victor Hugo）所寫戲劇。陳家麟重於戲劇教育潛力，認為歌劇院能促進文明發展。回國後，他在法國的文化閱歷

²² 北京師範大學檔案館員私人通信，2015年5月19日。筆者未見。

²³ 再參〈研究英文當審音及成誦〉，頁8，附“英文之統系”圖表。

均收集於〈戲劇為社會教育之主體〉，1923年3月25日刊於《北京高師周刊》（頁6）。該刊為北京高等師範學校周刊，此年7月1日改名為北京師範大學，陳家麟是否當時尚任此校教授，不詳。

次年林紓逝世，陳家麟被聘為膠濟督辦公署外交科科長、安國軍司令部外交處處長，1927年8至9月又任外交部特派山東交涉員²⁴，9月21日呈文辯解青島、濟南以及沿路各縣日本僑民的安全狀況，1928年4月底北伐軍接近山東，故陳家麟辭職。²⁵

1932年9月任河南大學文學院教授，為此院翻譯詩歌，均刊於《河南大學週刊》，1940年重刊於上海《新東方》雜誌。1934年陳家麟亦寫《白龍潭記》遊記，刊於《學生文藝叢刊》7卷第3號，頁51。1940年4月30日亦於《新東方》刊德國博士卜釋著者〈畢士麥首相言行別傳〉歷史翻譯（1卷第8號，頁198至205），Dr. Moritz Busch 原著者，原著〈The Day of Sedan〉，收入《Bismarck in the Franco-German War, 1870-1871》（紐約，1884年），第5章。此後陳家麟蹤跡不詳。²⁶

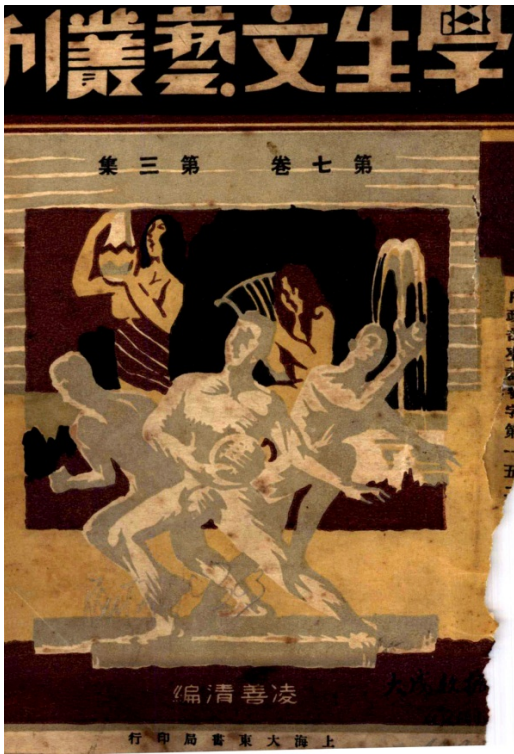
陳家麟翻譯小說原著鑑定

除林譯之外，陳家麟尚譯12種短篇小說，合譯者包括薛一譔，陳大燈以及陳大鐙。薛一譔，江都縣揚州人，與陳家麟祇合譯5種短篇小說。陳大燈，揚州人，與陳家麟祇合譯3種短篇小說。

²⁴ 陳家麟，〈北京政府外交部特派山東陳家麟交涉員呈〉，收入蔣永敬，《濟南五三慘案》，正中書局，台北，1978年，頁68。

²⁵ 參同上書；丁中江，《北洋軍閥史話》，春秋雜誌，台北，1978年，頁515。

²⁶ 1937年11月28日熊式輝（1893-1974）委任一位陳紱卿為廣豐縣政府秘書，身份不明（參〈委任汪傳雲陳紱卿等為定南廣豐等縣政府科長秘書〉，刊於《江西省政府公報》966期，1937年12月10日，頁41至42）。盧前（1905-1951）追憶他與陳家麟的記憶，共有三篇：〈戲癡〉（1949年4月7日）、〈記陳家麟（上）〉以及〈記陳家麟（下）〉（1951年4月7-8日）均收入《盧前筆記雜鈔》，中華書局，北京，2006年，頁9、137至139。



插圖六：《學生文藝叢刊》7卷第3號（1934年）

陳大鏡，（1868-1925），原名止，後名霞章，字孝起，儀徵揚州人。²⁷根據《博徒別傳》譯者信息，陳大鏡亦出生於儀徵縣揚州市，與陳大鏡同鄉。陳大鏡自1908至1909年以商務印書館為譯者，陳大鏡自1914至1918年以中華書局為譯者，筆者認為同一人。陳家麟與他們合作翻譯小說12種鑑定如下：

○《白頭少年》社會小說

（英）蓋婆賽原著者，陳家麟譯述者，光緒34年7月26日（1908年8月22日）由商務印書館出版，3卷，136頁。初版譯本罕見，吉林大學圖書館、上海圖書館藏。

蓋婆賽即 Guy Newell Boothby 原著者，原著為《In Strange Company: a Story of Chili and the

²⁷ Li Wenjie 誤判陳大鏡即陳家麟兄弟（A Study of Chinese Translations and Interpretations of H.C. Andersen's Tales: History and Influence, Københavns Universitet, 哥本哈根，2014年，頁11）。

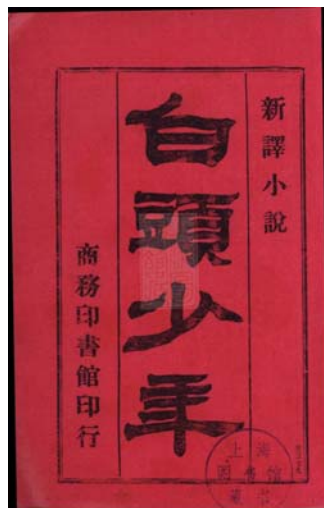
Southern Seas》（Ward 出版社，倫敦，1894年）。

Guy Newell Boothby（1867-1905），澳大利亞小說家，1874年移居英國，清末民初 Guy Boothby 譯本有《寶石城》、《盜窟奇緣》、《復國軼聞》、《青黎影》等，1917年7月林陳亦合譯《女師飲劍記》（A Brighton Tragedy），由商務印書館出版。

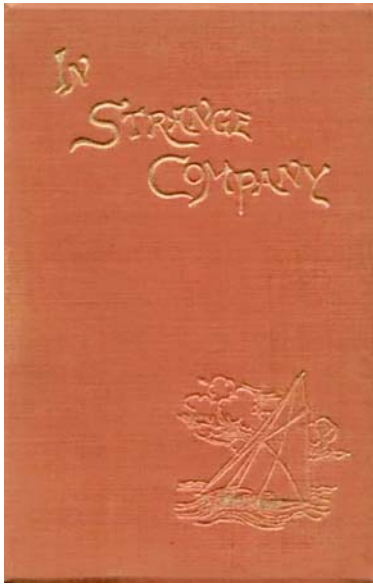
《白頭少年》雙語開頭對比如下：

First and foremost it should be stated how I, Luke Sanctuary, came to be connected with this most extraordinary and, to say the least of it, mysterious business. For my own part, I do not doubt but that when you have read a few pages you will have come to the conclusion that, personally, I had no share in its actual making, for I am a man of peaceful disposition, as much unaccustomed as I am unfitted to bear a hand in such adventurous concerns; and what is perhaps more to the point, one who has never been out of England in the whole course of his existence.

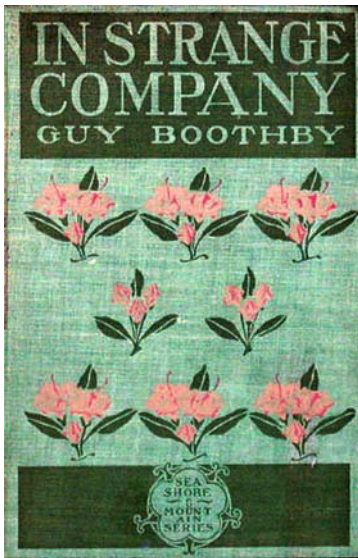
路克曰。予於是書。有何密切之關係耶。閱者諸君。欲知予之為人。當於開卷數紙中得之。及讀至終篇。則是書與予。固風馬牛之不相及也。何也。是書所述。皆非予所堪。予性嗜幽寂。不能為世界冒險家。且予生平足迹。未嘗一步越。白里敦三島以外。



插圖七：
1908年初版
《白頭少年》
封面



插圖八：1894初版《In Strange Company》



插圖九：1900版《In Strange Company》

○《海棠魂》言情小説

(英) 布斯俾原著者，薛一譯、陳家麟譯者，戊申年6月(1908年7月)由商務印書館出版，99頁。初版譯本似乎不存，1913年版藏於萊頓大學圖書館。

布斯俾即 Guy Newell Boothby 原著者，原著為《The Beautiful White Devil》(倫敦，1896年)。譯本刪節過多。《海棠魂》第2章雙語開頭對比如下：

The last stroke of twelve was just booming out on the muggy night when I stepped on to the landing-stage to await my mysterious employer. The hotel servant who had carried my bag put it down, and having received his gratuity left me. The soft moonlight flooded everything, threw quaint shadows upon the wharf planks, shone upon the sleeping sampans beside it, and gurgled in oily wreaths on the placid water in the depths between them. Very few people were abroad, and those who were had no attention to spare for me. The Sikh policeman, who passed and repassed, alone seemed to wonder what a white lord could be doing in such a place at such a time. But doubtless he had had experience of the curious ways of Sahibdom, and, being a wise man, if he possessed any curiosity, he refrained from giving me evidence of the fact.

月色初上。潮來拍岸有聲時有一人徘徊岸次。若不耐海風凜冽者印度巡捕見彼蹣跚行。恆來察視。



插圖十：1913年11月再版《海棠魂》封面



插圖十一：1896年初版《The Beautiful White Devil》封面

○《露惜傳》哀情小説

(英)司各德原著者，陳大燈、陳家麟譯者，宣統元年(1909)由商務印書館出版，2冊，143、165頁。初版譯本似乎不存。

司各德即 Walter Scott 原著者，原著《The Bride of Lammermoor》(愛丁堡，1819年，3冊)。Walter Scott (1771-1832)，蘇格蘭歷史小説家，清末民初陳家麟翻譯司各德作品亦有《驚婚記》(Quentin Durward)，1917年1月與陳大鏡合譯，由中華書局出版。

《露惜傳》第2章雙語開頭對比如下：

In the gorge of a pass or mountain glen, ascending from the fertile plains of East Lothian, there stood in former times an extensive castle, of which only the ruins are now visible. Its ancient proprietors were a race of powerful and warlike carons, who bore the same name with the castle itself, which was Ravenswood. Their line extended to a remote period of antiquity, and they had intermarried

with the Douglasses, Humes, Swintons, Hays, and other families of power and distinction in the same country.

有山峽由東婁森而南。蓋綠東婁森肥美之平原。地勢漸高。結成此境。中有極古極大之寨。代相承志寨主。極有力好戰。世襲侯爵。姓來溫武德。從其始祖之名也。亦即以之名此寨。一脈相為絕續。遙遙直接。為蘇革蘭與國休威之世家。所世為婚媾者。亦不下及尋常士庶之族。同時大姓。如道格拉士、秀穆、旬吞、更有數家。皆與有姻親之誼。



插圖十二：1914年5月《露惜傳》封面

○《笑裏刀》社會小説

(英)司提文森原著者，薛一諤、陳家麟譯者，宣統元年(1909)由商務印書館出版，30章，141頁。

司提文森即 Robert Louis Stevenson 原著者，原著《Kidnapped》，先刊於《Young Folks Paper》28卷第805號至29卷第817號(1886年5月1日至7月24日)，後由倫敦 Cassel、紐約 Scribner 出版。Robert Louis Stevenson (1850-1894)，蘇格蘭小説家。1917年3月由中華書局出版陳大鏡、陳家麟合譯《革心記》小説，原著《The Strange Case

of Dr. Jekyll and Mr. Hyde》。

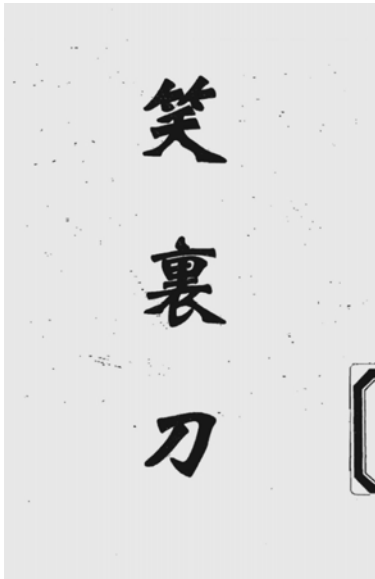
《笑裏刀》雙語開頭對比如下：

I will begin the story of my adventures with a certain morning early in the month of June, the year of grace 1751, when I took the key for the last time out of the door of my father's house. The sun began to shine upon the summit of the hills as I went down the road; and by the time I had come as far as the manse, the blackbirds were whistling in the garden lilacs, and the mist that hung around the valley in the time of the dawn was beginning to arise and die away.

[遺漏1段對話，陳家麟未譯]

My heart was beating hard at this great prospect now suddenly opening before a lad of seventeen years of age, the son of a poor country dominie in the Forest of Ettrick.

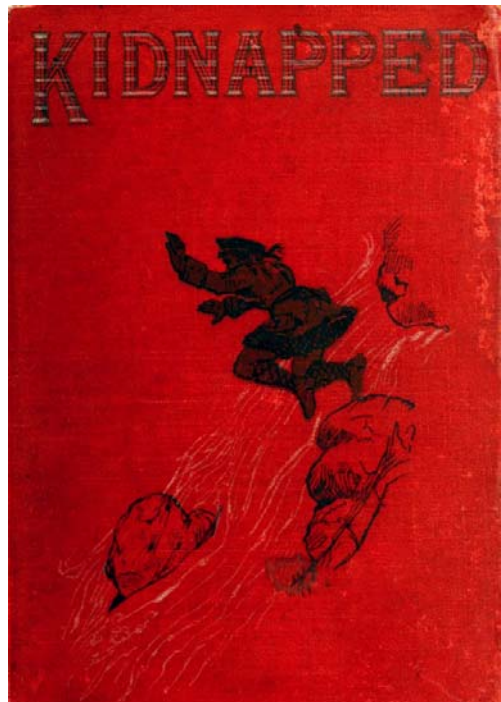
撥爾佛大假曰。吾此書起於一千七百五十一年六月某日。此日晨起。余自室中出。加鎖於門。納鑰衣袋中。由門隙望見室宇。殊戀戀不忍遽去。是室為吾父所遺。吾自有生以來十七年。



插圖十三：1909年初版《笑裏刀》封面



插圖十四：1886年《Kidnapped》原刊封面



插圖十五：紐約1886年初版《Kidnapped》封面

○〈土饅頭館〉醒世小説

原著者不詳，陳大鏡、陳家麟譯者，民國3年（1914）6月1日刊於《中華小説界》1卷第6期，頁1至16，9章，附1張圖片（插圖十六）。

Leo Tolstoy 原著者，原著〈How Much Land Does a Man Need?〉，1886年刊於《Russkoye Bogatstvo》（《俄國財富》月刊）4期，頁177至191。次月陳家麟與林紓合作托爾斯泰短篇小説翻譯《羅刹因果錄》，1914年7月至12月刊於《東方雜誌》11卷第1至6號。

〈土饅頭館〉似乎譯自 Nathan Haskell Dole 英語譯本（*The novels and other works of Lyof N. Tolstoi*；紐約，1899至1902年，22冊，收入第14冊）。此時〈土饅頭館〉英譯亦收入 Maude 夫妻（1906年）及 Arthur C. Fifield（1901），均不合陳家麟譯本。1902年由倫敦 James Clarke 公司出版，題〈Does a Man Want Much Land?〉，筆者未見。

〈土饅頭館〉雙語開頭對比如下：

A woman came from the city, to visit her younger sister in the country. The elder was a city merchant's wife; the younger, a country muzhik's. The two sisters drank tea together and talked. The older sister began to boast – to praise up her life in the city; how she lived roomily and elegantly, and went out, and how she dressed her children, and what rich things she had to eat and drink, and how she went to drive, and to walk, and to the theater.

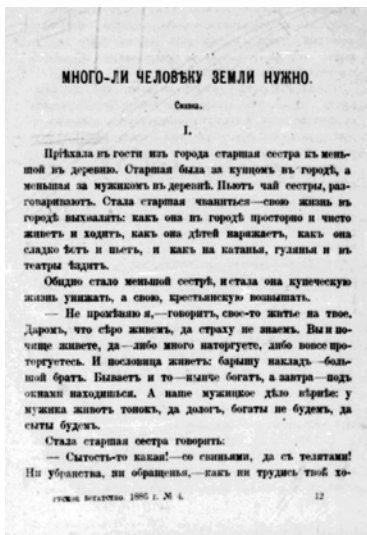
有同母姊妹二人。其姊嫁一巨商。居通商大埠。其妹家一農人。力耕餬口。距郭外數十里。賃屋而居。一日其姊過存其妹。苦茗一甌。解渴方止。姊即作矜色。盛誇夫家之富。飲食衣服。房屋童婢。以及所居繁盛。公園劇場。



土饅頭館

一四

插圖十六：〈土饅頭館〉圖片



插圖十七：〈How Much Land Does a Man Need?〉，《俄國財富》初刊

○《天刑記》苦情小説

（英）瑪克威魯原著者，陳大鏡、陳家麟譯者，民國4年（1915）7月1日至12月1日刊於《中華小説界》2卷第7至第12期。後民國4年（1915）12月由中華書局出版，2冊，126、152頁。

瑪克威魯即 Gerald Maxwell 原著者，原著《The Last Lord Avanley》（Mills & Boon 出版社，

倫敦，1909年8月）。Gerald Melbourne Maxwell（1862-1933），英國演員。

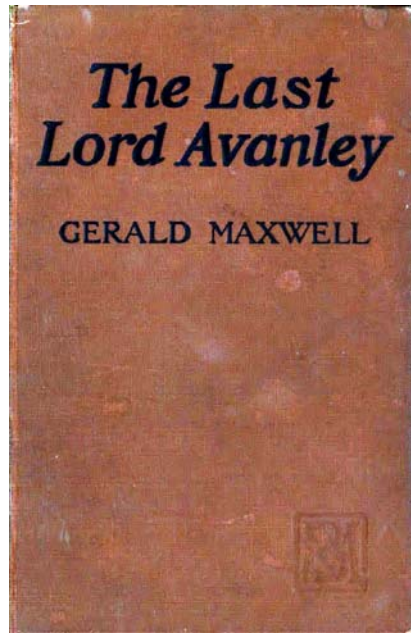
《天刑記》雙語開頭對比如下：

Millicent Tabor settled herself comfortably in the place which her attentive companion had secured for her in the dining-car of the Vienna express. During the interval between the time when the bustling and ubiquitous conductor had shepherded the last of the passengers into a seat and the moment when the attendants charged in with the soup, Millicent gazed out of the window with unseeing eyes. She was being borne swiftly towards the house that was to be her home henceforth. She was going among people she had never seen, but whom she could not think of as strangers. Once or twice she stole a glance at the young man seated opposite to her.

一女子名米麗蓀坐車中餐室。因一同行者引入。請坐以待之。車為奧京維也納快車。時正開行車。守照料上下即定。餐室人亦漸集。歷時良久。四向覓此同伴。遲遲始至。女子乘此車蓋歸家耳。



插圖十八：1915年初版《天刑記》上卷封面



插圖十九：1909年初版《The Last Lord Avanley》上卷封面

○《猶龍錄》俠情小説

（英）雷卡德瑪士原著者，陳大鏡、陳家麟譯者，民國5年（1916）1月1日至6月1日刊於《中華小説界》3卷第1期至第6期。後民國6年（1917）由中華書局出版，2冊，187、165頁。

雷卡德瑪士即 Richard Marsh 原著者，原著《A Metamorphosis》（Methuen 出版社，倫敦，1903年8月14日）。Richard Marsh（1857-1915），Richard Bernard Heldmann 筆名，英國暢銷小説家。

《猶龍錄》第2章雙語開頭對比如下：

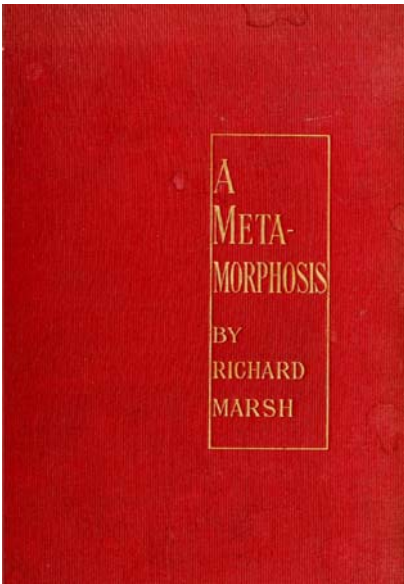
Between eleven and twelve that night he was on Southwark Bridge. Why he was there, or how, he would have found it difficult to say. Through the evening he had been following his nose hither and thither, without rhyme or reason. Now he was there; that was enough for him.

耳特於夜十一鐘。至老蘇勞克橋。其所以直至此間。並不自知。當其與鳩諦別時。心煩慮亂。至此頗覺暢適。於願已足。

不欲更行。



插圖廿：1917年初版《猶龍錄》上冊封面



插圖廿一：1903年初版《A Metamorphosis》封面

○〈鵝尾七人〉滑稽小説

原著者不詳，陳大鏡、陳家麟譯者，民國5年（1916）5月1日刊於《中華小説界》3卷第5期，共4頁。

Brothers Grimm 原著者，原著〈The Golden Goose〉（1812年）。格林兄弟即提 Jacob Grimm（1785-1863）和 Wilhelm Grimm（1786-1859）

兄弟，德國童話搜集家，清末民初 Grimm 作品被廣泛翻譯。

〈鵝尾七人〉譯自 Edgar Taylor 英語譯本（*Gammer Grethel's Fairy Tales. From the Popular Stories of the Brothers Grimm*, 倫敦，1902年），頁3至7。Taylor 譯本結尾與其他譯本顯著不同：

[...] the king had made known to all the world, that whoever could make her laugh should have her for his wife. When the young man heard this, he went to her, with his goose and all its train; and as soon as she saw the seven all hanging together, and running along, treading on each other's heels, she could not help bursting into a long and loud laugh. Then Dummling claimed her for his wife, and married her; and he was heir to the kingdom, and lived long and happily with his wife.

But what became of the goose and the goose's tail, I never could hear.

如有異人。能博其一笑破顏。寡人將舉國以從。並以吾女媵焉。丙入國羣焉屬目。以為志在尚主。備極逢迎。丙問知大概。喜不自禁。以為一笑傾城。可操左券。毅然直達。公主坐閣以待。見一童駢。手一金鵝。而七人者或男或女。或老或少。纍纍如貫珠。綴於鵝尾之後。跬步不離。受命於孺子之手。不覺大笑有聲。國王以下。舉國若狂。懽聲雷動。引丙入浴更衣。與貴主成禮。王即嗣贅壻為世子。王薨。即以丙嗣其國。傳之無窮。或問彼金鵝與七人。何以竟無著落。予對曰。此段佳話。為父老所流傳。當日傾聽之時。未嘗及。予亦不敢杜撰也。

○〈鴉言〉警世小説

原著者不詳，陳大鏡、陳家麟譯者，民國5年（1916）6月1日刊於《中華小説界》3卷第6期，共有4頁。

Evening the first



插圖廿二: Taylor 譯本1902年版〈The Golden Goose〉附圖

Brothers Grimm 原著者，原著〈The Three Crows〉(年份不詳)。譯自 Edgar Taylor 英語譯本 (Gammer Grethel's Fairy Tales. From the Popular Stories of the Brothers Grimm, 倫敦, 1902年), 頁237至242。

〈鴉言〉雙語開頭對比如下:

A band of soldiers came home from the wars; for peace had been made and their king wanted their pay; for he did not spend all he earned in eating and drinking, as many others do. Now two of his comrades were great rogues, and they wanted to rob him of his money: however, they behaved outwardly towards him in a friendly way.

有一隊散卒。不克歸國。即於戰地位置。君王不復耀武。軍士之待遇遂衰。中有康拉穆寄居人國。衣食粗足。尚不憂貧。因平日從戎。所得餉銀。銖積寸累。不似同袍之朝不謀夕。如土揮金。故略有儲積。雖為數無幾。有同里故人二同時追伍。頗覬覦之。康拉德人極忠厚。習焉不察。二人陰謀密議。共定劫奪之地。

○《風俗閒評》社會小說

(俄)契訶夫原著者，陳大鏡、陳家麟譯者，民國5年(1916)11月由中華書局出版，2冊。上冊14篇，117頁；下冊9篇，118頁。

契訶夫即 Anton Tchekoff 原著者，原著《Stories of Russian Life》(倫敦、紐約，1914年，Marian Fell 譯者)，共有24篇。Anton Pavlovich Chekov (1860-1904)，俄國短篇小說作家。

先前《風俗閒評》內已有12篇被鑑定，其餘兩篇有〈寶星〉、〈不掩〉，原著為〈The Decoration〉、〈Murder Will Out〉。陳家麟譯本缺乏原本中的〈Champagne〉一篇。按照《Stories of Russian Life》短篇小說目錄，《風俗閒評》短篇小說題名如下:

上冊

逾格之防衛	Overseasoned
律師之訓子	At Home
可棄	Not Wanted
肥瘦	Lean and Fat
盜馬	The Robbers
鐵螺旋審判	The Malefactor
乞人	The Beggar
惡客	The Troublesome Guest (陳譯目錄未記)
一嚏致死	The Death of an Official
亞若妮	Agatha
寶星	The Decoration
花匠頭之軼事	The Head Gardener's Tale
不許大聲	Hush!
不掩	Murder Will Out

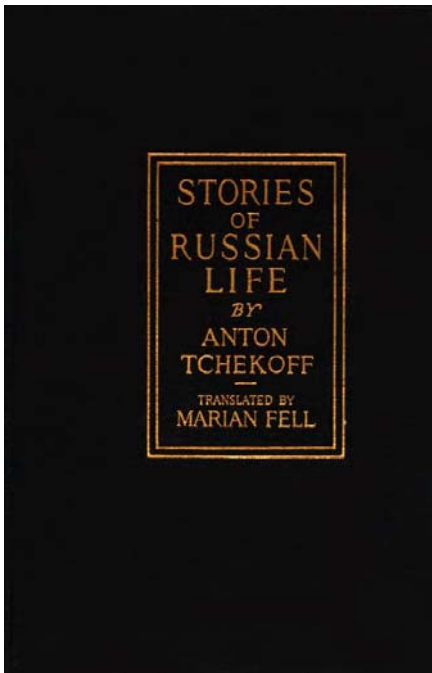
下冊

山莊	In the Ravine
小介哥	Little Jack
夢嚙	Dreams
說法	Without a Title
逆旅	On the Way
妝奩	The Trousseau

囊中人 The Man in a Case
 兒戲 Children
 耶穌復生節的前夜 The Night Before Easter



插圖廿三：1916年初版《風俗閒評》封面



插圖廿四：紐約1914年初版《Stories of Russian Life》封面

○《鮑亦登偵探案》偵探小說

原著者不詳，陳大鐙、陳家麟譯者，民國5年（1916）12月、6年（1917）1月由中華書局出版，3集，全4冊。第1集上冊132頁、下冊不詳，共有11篇，封面印刷紅色；第2集，6篇，138頁，封面印刷綠色；第3集，7篇，154頁，封面印刷藍色。在筆者所佔有的譯本上加蓋『金华查抄图书编号17181』及『17182』烙印，為文化大革命時期查抄書籍（插圖廿五至廿七）。

Scott Campbell 原著者，原著為《Below the Dead-Line》，原刊於《The Popular Magazine》1卷第4號至5卷第3號（1904年2月至1906年1月），同時由紐約 Street & Smith 出版，分為2冊：1904年《Below the Dead-Line》第1冊，12篇，311頁，與陳家麟第1集譯本同書；1905年《On the trail of "Big Finger": a continuation of the "Bellow the Dead-Line" stories》第2冊，12篇，300頁，今藏於美國德克薩斯州大學奧斯汀分校的 Harry Ransom Center Book Collection。與陳家麟第2、3集譯本同書。《鮑亦登偵探案》第1集共有11篇，所以《Below the Dead-Line》英本中最後〈The case of the tan glove〉一篇被譯於陳家麟第2集譯本。

Scott Campbell（1858-1933），Frederick W. Davis 筆名，創作出鮑亦登偵探（Felix Boyd），一半福爾摩斯（Sherlock Holmes）、一半聶克卡脫（Nick Carter），共有寫48短篇小說，陳家麟翻譯24篇。

《鮑亦登偵探案》第1章〈遺失債務〉（The Case of the Vanished Bonds）雙語開頭對比如下，譯本不準確：

The man sent for was Mr. Felix Boyd. []
 Precisely why Messrs. Curry, Gale & Fiske, the great New York banking-house, instantly appealed to Mr. Boyd, instead of applying to the police or at the central office for assistance, possibly may always remain open to general conjecture. For the whole truth concerning Mr. Felix Boyd cannot here be told.

[遺漏3段，陳家麟未譯]

It is known that Boyd has an office in Pine Street, but for what business purposes few can tell.

美國紐約銀行。有名克戈孚者。遺失債票。由鮑亦登偵探。為之緝獲。因鮑亦登就居於勃因街。



插圖廿七：1917年初版《鮑亦登偵探案》3集封面



插圖廿五：1916年初版《鮑亦登偵探案》1集上冊封面

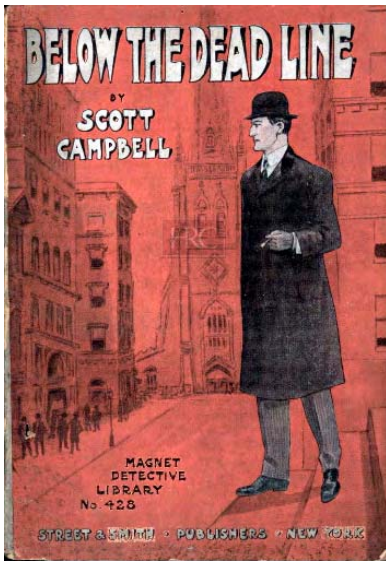


插圖廿六：1917年初版《鮑亦登偵探案》2集封面



插圖廿八：1904年《The Popular Magazine》1卷第4

號封面



插圖廿九：1904年《Below the Dead-Line》初版封面



插圖卅：1905年《On the trail of "Big Finger"》初版封面

○《十之九》社會小說

(丹麥) 安德森原著者，陳大鐙、陳家麟譯者，民國7年(1918)1月由中華書局出版，6篇，70頁。

安德森即 Hans Christian Andersen 原著者，原著《Danish Fairy Legends and Tales》(Bohn 出版社，倫敦，1861年再版)，Caroline Peachey 譯者。Hans Christian Andersen (1805-1875)，丹麥作家，以童話聞名於世。Peachey 譯本與 Andersen 原本不符，例如由〈Rejsekammeraten〉一篇(丹

麥語：The Travelling Companion)，其開頭如“Den stakkels Johannes var så bedrøvet”(“可憐約翰十分難過”)，Peachey 卻譯成“Poor Hans was so unhappy!”(“可憐翰思十分難過”)。²⁸陳家麟翻譯忠實於 Peachey 譯本，故其譯第4篇題目隨著 Peachey 開頭，譯成〈翰思之良伴〉。Peachey 譯本兩版，1846年初版共有14篇，不含陳家麟所譯的短篇小說6篇；1861年再版共有57篇，含陳家麟譯本。其中短篇小說能鑑定如下：

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 〈火絨篋〉 | 〈The Tinder-Box〉 |
| 〈飛箱〉 | 〈The Flying Trunk〉 |
| 〈大小克勞勢〉 | 〈Great Claus and Little Claus〉 |
| 〈翰思之良伴〉 | 〈The Fellow Travellers〉 |
| 〈國王之新服〉 | 〈The Emperor's New Clothes〉 |
| 〈牧童〉 | 〈The Swineherd〉 |
- 〈火絨篋〉英華開頭對比如下：

A soldier was marching along the high-road –right, left, right, left! He had his knapsack on his back and a sword by his side, for he had been to the wars, and was now returning home. And on the road he met an old Witch –a horrid-looking creature she was, her lower lip hung down almost to her neck.

一退伍之兵。在大道上經過。步法整齊。背負行李。腰挂短刀。戰事已息。資遺歸家。於道側邂逅一老巫。面目可怖。未易形容。下唇即厚且長。直拖至頰下。

²⁸ 關於 Peachey 譯本水準問題，請參 Viggo Hjørnager Pedersen, *Ugly Ducklings? Studies in the English Translations of Hans Christian Andersen's Tales and Stories*, Syddansk Universitetsforlag, 歐登塞，2004年，頁114。



插圖卅一：1918年初版《十之九》封面

262



THE TINDER-BOX.

A SOLDIER was marching along the high-road — right, left! right, left! He had his knapsack on his back and a sword by his side, for he had been to the wars, and was now returning home. And on the road he met an old Witch — a horrid-looking creature she was, her lower lip hung down almost to her neck.

“Good evening, Soldier!” said she. “What a bright sword, and what a large knapsack, you have, my fine fellow! I’ll tell you what, you shall have as much money for your own as you can wish!”

“Thanks, old Witch!” cried the Soldier.

“Do you see yonder large tree?” said the Witch, pointing to a tree that stood close by the wayside. “It is quite hollow within. Climb up to the top, and you will find a hole large enough for you to creep through, and thus you will get down into the tree. I will tie a rope round your waist, so that I can pull you up again when you call me.”

插圖卅二：1861年 Peachey 譯本〈火絨篋〉附圖

陳家麟古文白話詩歌翻譯

自1932年起陳家麟為《河南大學週刊》及上海《新東方》雜誌與邵瑞彭（1887-1937）合作詩歌翻譯。由於官方限制，筆者無法閱讀《河南大學週刊》5期後，故祇能鑑定6種新譯：

○〈澎湃復澎湃〉

（英）詩人坦尼生原著者，次公（邵瑞彭）、絨卿（陳家麟）譯者，民國21年（1932）9月24日刊於《河南大學週刊》2期，頁6，古文翻譯。陳家麟增加引言。

坦尼生即 Alfred Lord Tennyson 原著者，原著〈Break, break, break〉（1835年）。Alfred Lord Tennyson（1809-1892），維多利亞文學時期的英國詩人。

第一節雙語對比如下：

Break, break, break,
On thy cold gray stones, O Sea!
And I would that my tongue could utter
The thoughts that arise in me.
澎湃復澎湃。海水打寒石。
吾舌猶幸存。萬感從君出。

○〈汎海〉

（英）詩人坦尼生原著者，次公（邵瑞彭）、絨卿（陳家麟）譯者，民國21年（1932）9月24日刊於《河南大學週刊》2期，頁6至7，古文翻譯。陳家麟增加引言。

坦尼生即 Alfred Lord Tennyson 原著者，原著〈Crossing the Bar〉（1889年）。第一節雙語對比如下：

Sunset and evening star,
And one clear call for me!
And may there be no moaning of the bar,
When I put out to sea,
浩浩海上潮。潮平波不起。

○〈幽林鷗波〉

（英）詩人波朗令原著者，次公（邵瑞彭）、絨卿（陳家麟）譯者，民國21年（1932）10月1日刊於《河南大學週刊》3期，頁6至7，古文翻譯。1940年4月30日重刊於《新東方》1卷第2至3號，頁142（第2號未見）。陳家麟增加引言。

波朗令即 Robert Browning 原著者，原著 (Evelyn Hope)，〈幽林鷗波〉詩題按音標翻譯。Robert Browning (1812-1889)，維多利亞文學時期的英國詩人及劇作家，當時 Tennyson 及 Browning 為英國大詩人。

第一節雙語對比如下：

Beautiful Evelyn Hope is dead!
 Sit and watch by her side an hour.
 That is her book-shelf, this her bed;
 She plucked that piece of geranium-flower,
 Beginning to die too, in the glass;
 Little has yet been changed, I think:
 The shutters are shut, no light may pass
 Save two long rays thro' the hinge's chink.
 彼美幽林鷗波忽長逝
 陪君兀坐不覺辰晷移
 圖書插架猶在望
 匡牀枕簟徒紛披
 瓶中鬱金之花君所拈
 如今漸遂芳顏衰
 眼前長物未盡改
 瑣窗黯澹祇餘雙隙穿殘暉



插圖卅三：上海《新東方》1卷第3號

○〈旅居思鄉作〉

(英) 詩人波朗令原著者，次公 (邵瑞彭)、絨卿 (陳家麟) 譯者，民國21年 (1932) 10月8日刊於《河南大學週刊》4期，此期未見，古文翻譯。1940年4月30日重刊於《新東方》1卷第3號，頁244。陳家麟增加引言。

波朗令即 Robert Browning 原著者，原著 〈Home Thoughts from Abroad〉 (1845年)。陳家麟所譯的 Tennyson 及 Browning 詩歌均收入許多英國詩集，原本無法確定。

第一節雙語對比如下：

Oh, to be in England
 Now that April's there,
 And whoever wakes in England
 Sees, some morning, unaware,
 猛憶英倫四月天，家家曉起望林園

○〈哲學家的石頭〉

(美) 詩人提露登原著者，陳家麟譯者，民國29年 (1940) 6月30日刊於《新東方》1卷第8號，頁209至212，白話翻譯。

提露登即 Theodore Tilton 原著者，原著 〈The Philosopher's Stone, or the alchemist's delusion〉，收入《The Complete Poetical Works of Theodore Tilton》(倫敦，1897年)，頁518至528。Theodore Tilton (1835-1907)，美國詩人，1869年任康奈爾大學歐文文學社畢業典禮演講者。

第一節雙語對比如下：

The fleeting morning passed, and soon
 The shortened shadows brought the noon:
 The matins of the birds were over,
 But all about me, in the clover,
 I heard the hum of honey-bees;
 And now, on all the resin-trees,
 The strident, sun-adoring crowd
 Of shrill cicadas' sang aloud;
 Whilst far away, like echoing trumpet-calls,

A dozen tumbling waterfalls
 Down from the Norska Fiellen roared
 And whitened into Flekker Fiors.
 清晨的時光急速的過去了。物影漸短，晌
 午來臨。眾鳥喧叫，如同早禱，已成過去。
 這時金菜花裏我已聽見蜜蜂嗡嗡之聲。松
 樹上的蟬高聲鳴唱，又聽見遠處挪斯加山
 上流下來的瀑布之聲，好似大號筒之回響。
 原來有十幾個瀑布由挪斯加山上流入峽江。

○〈返老還童〉

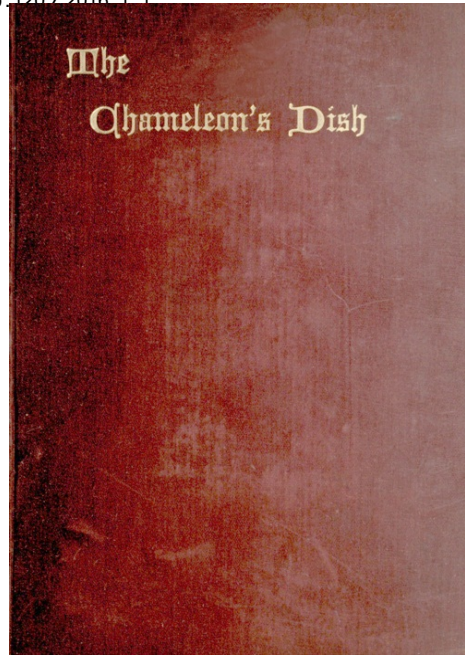
(美) 詩人提露登原著者，陳家麟譯者，民國29年(1940)9月2日刊於《新東方》1卷第8號，頁169至178，白話翻譯。

提露登即 Theodore Tilton 原著者，原著〈Ponce de Leon's Fount of Youth. A New Version〉，原收入《The Chameleon's Dish》(巴黎，1893年)，頁182至207，後收入《The Complete Poetical Works of Theodore Tilton》(倫敦，1897年)，頁410至426。因1893年版《The Chameleon's Dish》非《哲學家的石頭》，故陳家麟也許譯自1897年再版本。

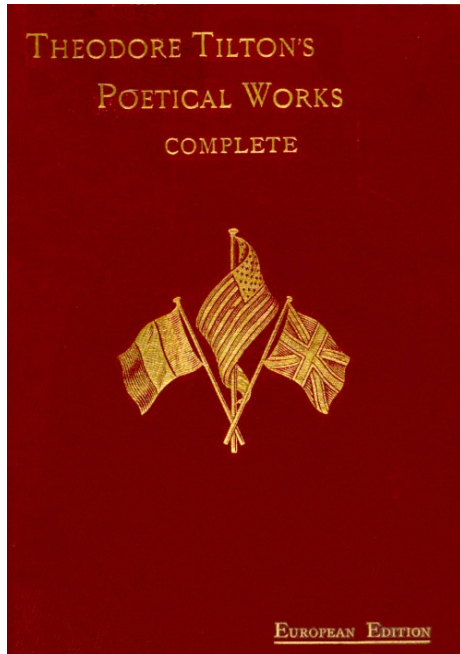
第一節雙語對比如下：

This mad and merry tale, my gentle friends,
 Is told so often, that you call it trite;
 But you shall find, before my ballad ends,
 That former bards have never told aright
 The droll adventures of the hordy-headed
 Knight.

讀者諸君：這段荒謬引笑的故事，本是常常經人講述著，諸君必以為老生常談毫不足奇。但是我說這段故事時，大家聽了一半，就可看出從前所講的人永未把白髮老將冒險情形說得確實了。



插圖卅四：1893年初版《The Chameleon's Dish》封面



插圖卅五：1897年初版《The Complete Poetical Works of Theodore Tilton》封面

《河南大學週刊》5期後，筆者設法獲得週刊目錄，又發現陳家麟的6種作品，此中有5種翻譯：

○〈輯蘇格蘭田家小女行〉

絨卿(陳家麟)譯者, 民國21年(1932)10月15日刊於《河南大學週刊》5期, 詩歌翻譯, 未見。

○〈采蛭老人行〉

伯仁(身份不詳)、絨卿(陳家麟)譯者, 民國21年(1932)10月29日刊於《河南大學週刊》7期, 詩歌翻譯, 未見。

○〈清泉〉

伯仁、絨卿(陳家麟)譯者, 民國21年(1932)11月5日刊於《河南大學週刊》8期, 未見。

○〈鱗墩戰場〉

甘柏盧原著, 次公(邵瑞彭)、絨卿(陳家麟)譯者, 民國22年(1933)1月3日刊於《河南大學週刊》15期, 未見。

甘柏盧原著或許為 Thomas Campbell, 蘇格蘭詩人。Campbell 作品中祇有〈Laudohn's Attack〉一首詩與陳譯標題相配, 但筆者未見陳譯, 無法確定。

○〈漁父歌〉

巴莉原著(Peter Parley?), 伯仁、絨卿(陳家麟)譯者, 民國22年(1933)1月3日刊於《河南大學週刊》15期, 詩歌翻譯, 未見。

○〈清明前一日過鉄塔有感〉

絨卿(陳家麟)原著者, 民國22年(1933)3月27日刊於《河南大學週刊》21期, 未見。

罫

清末小説研究会全記録

ウェブ上での公開開始から2015年11月19日までの研究会ウェブサイト全ファイルをダウンロードすることができます。参考のために掲げました。

2カ所に収録していますが、どちらも同じものです。

以下のurlをご覧ください。

清末小説研究会 <http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto>

漢訳『奇獄』の謎 2

問題解決篇

沢本香子

謎を解明する鍵

前稿では、「偵探談増刊」の「虚無党」とはなにか、と疑問を出しておいた。

小説林社の広告を見てほしい。「虚無党之秘密案」の内容が「偵探談増刊之虚無党」と同じだったとある。ここからは、「虚無党之秘密案」が(「偵探談増刊」の)「虚無党」に対応していると読むことができる。できるどころか、研究者の全員がそう読んだ。別のいい方をすれば、翻訳集『偵探談増刊』に収録されたのが「虚無党」というひとつの作品である。そう理解してきた。

しかし、奇妙なことに翻訳集『偵探談増刊』という単行本は、その題名ではどこを探しても見あたらない。各種の小説目録を目にしたが、見たかぎりにおいて「虚無党」を収録する単行本の『偵探談増刊』は存在しない。不思議なことだと思ふ。

視点を変えよう。

「偵探談」であれば、陳景韓訳で4冊まで刊行されている。「偵探談増刊」と関係があるのか。だが、阿英目録にも「偵探談増刊」は収録されていない。そこに再びたどりつく。

一方で漢訳小説集『虚無党』は存在することになっている。阿英目録にも見える(後述)。小説集『虚無党』はあっても「偵探談増刊」所収

の「虚無党」は、ない。疑問が疑問をうむ。

興味深いことに、問題の「偵探談増刊」について当事者の証言が残っている。

陳景韓自身が、漢訳小説集『虚無党』の「識語」において、次のように説明しているという。孫引きになる。

私(陳景韓)は「偵談」2巻を訳したのち、探偵とは反対の虚無党に出会った。そこで虚無党3種を選んで翻訳し1巻にした。それは探偵系統ではあっても同じではない。ゆえに「偵探談」増刊と名づけた。(余訳《偵談》二巻後、忽有触於与偵探相反之虚無党、乃擇虚無党三種訳之、都為一卷。其与偵探相系而不相同、故名《偵探談》増刊*5)

陳大康は、この「識語」を漢訳小説集『虚無党』原本から引用したはずだ。彼が、それに自分の判断でカッコを施したと思われる。「《偵探談》増刊」とした部分から、陳大康が「偵探談」シリーズの増刊だと理解していることが明白だろう。「識語」の流れを読めば、そうなるかと思いはする。だが、名づけて「偵探談」増刊とするのは、漢字の落ち着きが悪い。命名するなら「偵探談増刊」ではなかろうか。疑問に感じたところだ。カッコをつける位置が間違っているだろう。

そこで私は、ふと思いついた。小説林社広告にある「虚無党」は、作品集『偵探談増刊』に収録された単独の作品ではない。では、何か。

ひとこと言えば、「偵探談増刊」は、漢訳小説集『虚無党』にほかならない。同一書にふたつの題名がついている。あるいは、「偵探談増刊」の別名が「虚無党」である。同じことをいっている。

小説林社広告にある「偵探談増刊之虚無党」の読み方が問題だ。今までは作品集『偵探談増刊』に収録された作品のひとつが「虚無党」と解釈されていた。小説林社広告についての読

みが、不十分だったのではないか。

このたび私が思いついたのは、そうではない。「偵探談増刊」という「虚無党」だ。両者は同じものを表わしている。漢訳小説集『虚無党』は、すなわち「偵探談増刊」にほかならない。作品集に収録される単独作品の「虚無党」が見つからない理由である。存在しない作品は、探しても見ることはできない。

以上が実物を見ないで私がたどりついた仮説である。単独の作品「虚無党」ではない。区別するために、漢訳小説集『虚無党』と表記している。

「偵探談増刊」と「虚無党」の活字が、書物の上でどのような形に印刷されているかはわからない。「虚無党」が中心で「偵探談増刊」が角書のような位置にあるのか。「偵探談増刊」は小さく奥付に出てくるだけなのか。実物を見ることができないので不明だ(あとで判明した)。

漢訳小説集『虚無党』について阿英目録は、次のように説明している。

[阿英146] 虚無党 冷血訳。光緒三十年(1904)

開明書店刊。

- (一) 白格 杜衣児著
- (二) 綺羅沙夫人 渡辺為蔵著
- (三) 加須克夫 田口掬汀著*6

上を見るかぎり、翻訳短篇小説集だとわかる。ママとつけた2カ所は、別の資料によると「氏」がつく。以下は、「氏」をつけて表示する。

冷血(陳景韓)による翻訳集は、「偵探談」の「一」から「四」までが、これも阿英目録143頁に「偵探譚」として収録されている(「談」と「譚」は、中国の書物、論文、目録で多く混同される)。「偵探談」系列の1冊だから「増刊」である。ただし、探偵ものではないから別に題名をつけて「虚無党」を前面に出して書名とした。そう考えれば理解しやすい。

私が以上のように推測するには、根拠がある。

陳景韓は、漢訳小説集『虚無党』が「偵探談」系列に属すると説明している。しかも、その刊行は2巻を出したあとだともいう。

「偵探談」シリーズ各冊についてその刊年を見てみよう。

『偵探談一』(光緒二十九年七月初五日)

『偵探談二』(光緒二十九年十二月)

『偵探談三』(光緒三十年四月)

『偵探談四』(光緒三十年十月)

と時間順に刊行された。

以上を並べたの箇所に漢訳小説集『虚無党』(光緒三十年二月)を配置すれば、まさに『偵探談二』につづくことがわかる。「偵探談増刊」である。陳景韓の証言どおりだ。

以上を書いたあとで前出の付建舟『清末民初小説版本経眼録・日語小説巻』を見た。漢訳小説集『虚無党』を収録している。冷血「識語」を引いて「偵探談増刊」という([付日103])。その指摘は、私の考えと一致する。

付建舟は本文と奥付の写真を掲載して珍しい。彼は説明して以下のとおり。原文のまま引用する。

凡三篇、即《第一白格氏》、《第二綺羅沙夫人》、《第三加須克夫氏》。《白格》為杜衣兒原著、凡五小節、無節目。《綺羅沙夫人》為(日本)渡辺為蔵氏原著、凡九小節、無節目。《加須克夫氏》為(日本)田口掬汀氏原著、凡六節、無節目。每篇末都有冷血の評点。102-103頁

各作品の題名に「氏」がついていたり、いなかったり。本文写真には「虚無党第一/白格」と見える。付建舟は説明文において「第一白格

氏」「第二綺羅沙夫人」「第三加須克夫氏」と書いているのは上のとおりだ。するとこれらの表記は目次にあるものかと推察する。本文と目次の記載が異なることは、当時普通に見ることができる。

付建舟の経眼録シリーズは、基本的に表紙と奥付の写真をかかげる。ところが、該書については表紙写真がない。本文と奥付写真には「偵探談増刊」という文字がどこにも見えない。また、彼の説明文にも出てこない。不思議なことだ。

直接付建舟に質問した。なぜ、表紙写真を掲載しなかったのか、と。教示いただいたその理由は、簡単なものだった。黒表紙には、なにも印刷されていないからだ、という。そうであれば、ここは説明が必要な箇所だろう。私のように疑問を抱く。

もうひとつ「偵探談増刊」と「虚無党」の文字配置が問題だ。これは、目次にあることが判明した。割り注風に小活字で「偵探談ノ増刊」を「虚無党」にかぶせている。すなわち「偵探談増刊」は角書扱いだ。角書を採録しない阿英目録に「偵探談増刊」が見えない理由である。

それでは、漢訳小説集『虚無党』に収録された各作品の底本はどういうものか。

漢訳小説集『虚無党』の底本

今のところ実物を見ることができない。別の方向から接近する。

前出中村論文に言及がある。阿英目録と重複するがそれだけにとどまらない。引用する。

光緒卅年(一九〇四年・明治卅七年)

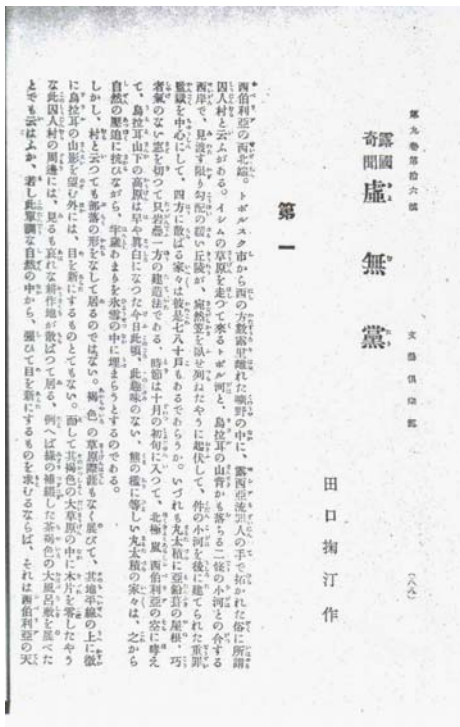
虚無党 冷血訳 開明書店刊

未見。阿英氏の前掲書目には、「白格」杜衣兒著・「綺羅沙夫人」渡辺為蔵著・「加須克夫」田口掬汀著の三篇を収めるとしてある。掬汀の「加須克夫」は、『文芸倶楽部』九卷十六号(明治卅六年十二月)所載

の「魯国奇聞虚無党」、「白格」はドイル物だが、原題未詳。139頁

中村忠行による新しい指摘は、収録された田口掬汀著「加須克夫氏」の原作が同氏「魯国奇聞虚無党」であることだ。中村はそれ以上説明していない。どう見ても題名は別物だ。そうすると、漢訳の実物を見ていない中村は、著者の田口掬汀つながりで漢訳に結びつけたらしい。それだけ豊富な知識があった。

漢訳小説集『虚無党』に収録された各作品について説明する。



田口掬汀「加須克夫氏」

中村の指摘にもとづいて日本語原作を確認した。田口掬汀作「(露国奇聞)虚無党」(『文藝倶楽部』9巻16号1903.12.1。88-133頁)である。角書の1字「露」に関して中村は「魯」と書き誤った。田口の原作に言及する研究文献がすべて「魯国」と誤るのは、中村の指摘を鵜呑みにしたからだ。だが、漢訳が田口の原作であることは、中村のいうとおりで当たっている。

田口の「虚無党」が陳景韓の手で漢訳される

と題名が「加須克夫氏」に変化した。なぜか。

その理由は簡単だ。主人公の名前が加須克夫(カスコフ)であることによる。別の収録作品が「白格氏」「綺羅沙夫人」であることを見れば明らかに人名だ。本来の題名ではなく別の訳名をつけた。人名を前面に出す翻訳方針だと理解できる。

コサック歩兵中隊長のカスコフが、上官の命令に背いて逮捕された。虚無党だ、とその罪状をでっちあげられたのである(総ルビ省略)。

此奴は虚無党の間諜ぢや、露帝陛下の御一命を覬ふ国賊ぢや。101頁

命令不服従が逮捕理由ではない。その虚無党に対する当時の認識は、軍法会議におけるつぎの罪状陳述に明らかにされている。

それは加須克夫は豫て虚無党に加盟して、政府転覆の陰謀に参加し、先づ軍隊内部の秩序を壊すべき目的を抱いて、始終兵員の心を離間せしむべく勤めたのである。111頁

カスコフに、シベリアへの無期流刑が宣告された。理由は虚無党というだけ。事実無根であったが、それだけの判決になった時代だ。彼は、シベリアで生活するうちに腐敗した支配階級を倒すために本当の虚無党員になる。

以上の大筋を見れば、日本語原作が「虚無党」であることは明白だろう。

渡辺為蔵「綺羅沙夫人」

「綺羅沙夫人」については、新発見があった。底本は、訳者名なし(実は徳富蘆花)「大隠謀」(『探偵異聞』民友社 1900.11.24 / 1907.12.1 三版)である*7。著者として表示のある渡辺為蔵は該書の発行人だった。

蘆花「大隠謀」も虚無党がらみの物語だ。

ロシアを追放されてロンドンで豪華な生活をおくる伯爵がいた。その邸宅では、英国人のウィルソン夫人が家事の一切を取り仕切っている。その夫人がスイスで開催される虚無党の集会に参加する。しかも議長である。閉会后、夫人はロシアへ移動し、さらに秘密集会へ……。

陳景韓は、小説の中心人物ウィルソン夫人からとって漢訳題名「綺羅沙夫人」とした。

注目点だから明確にしよう一度いう。

小説林社の広告が説明しているのは、こうだ。漢訳小説集『虚無党』収録3作品のうちのひとつが『奇獄二』に収録された「虚無党之秘密案」と同じだ。しかも、英文原作である。

見てきたとおり、漢訳小説集『虚無党』所収の2作は日本語が底本である。陳景韓は日本に留学しており、彼の翻訳する底本はほとんどが日本語だ。そこから考えれば、阿英目録にある杜衣児著「白格」、すなわち「白格氏」も日本語からの重訳ではないか。外国作品を日本語から重訳したと類推する。

核心に近づいてきた。では、「白格氏」とはなにか。

杜衣児「白格氏」

阿英は、漢訳小説集『虚無党』を手元において「白格[氏]」の原作者が杜衣児だと書いたはずだ。

渡辺為蔵(実は発行者。訳者は徳富蘆花)と田口掬汀が日本人であることはわかる。だが、杜衣児という漢字の組み合わせは、日本人には見えない。陳景韓が音訳して杜衣児にしたとわかる。すぐ思いつく。ドイツ、すなわち Arthur Conan Doyle ではなかろうか。思いつくもなにも、すでに中村忠行の指摘「ドイツ物だが、原題未詳」があった。中村の示唆を受け止めて私は以下のように追究する。

ドイツ原作で日本語に翻訳された作品。しかも、陳景韓の目にとまった日訳ということになる。可能性があるのはなにか。

陳景韓は、原抱一庵(余三郎)の日本語翻訳にもとづいていくつかを漢訳したことがある。彼の視野に原抱一庵は入っていた。

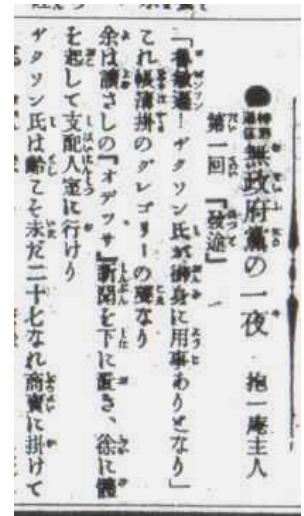
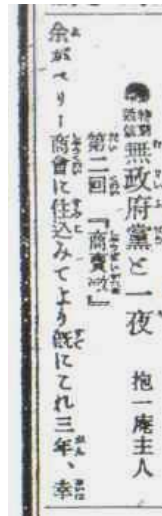
原抱一庵は、ルイ・ストロング原作を翻訳して「造人術」とした。該翻訳は、魯迅と包天笑によって漢訳されたのは周知のことだろう。

ならば、原抱一庵が翻訳した虚無党物語はあるのか。

ある。ドイツの「ニヒリストたちとの一夜」だ。ホームズものではない。

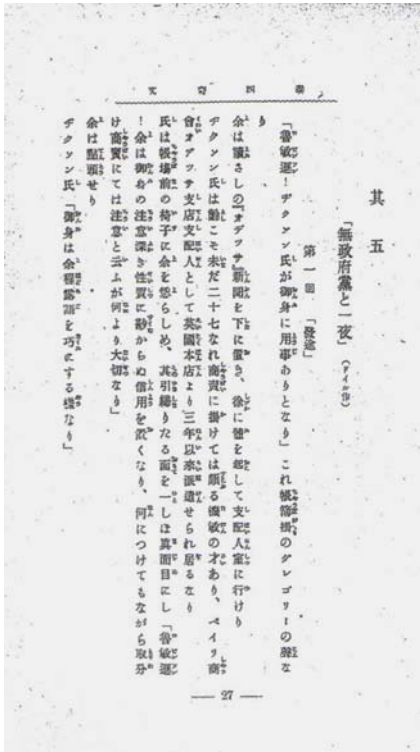
原題は“A Night Among the Nihilists”(“London Society”1881.4。のち *Mysteries and Adventures*. 1889 に収録)である。

原抱一庵の日本語翻訳は、最初新聞に連載された。原作者不記、抱一庵主人(特別通信)無政府党の(と)一夜(『東京朝日新聞』1902.11.8-21。第2回より「と」に変更)だ。これは、原作者を示してドイツ作「無政府党と一夜」となり、抱一庵主人『小説泰西奇文』(知新館 1903.9.10。27-52頁)に収録された。



陳景韓は、作者を杜衣児と漢訳しているのだ。底本としたのはドイツ名のない新聞初出ではなく、ドイツ名のある単行本の『泰西奇文』だとわかる。

ドイツ原作の内容は、簡単にいえば次のとおり。



ロシア駐在のイギリス人口ピンスンが、穀物の買い付けに地方へ派遣される。途中で無政府党の党員に間違えられ会議に出席することになるが、身元がばれりと殺される。そうならないためには嘘をつきとおすほかない。彼は、質問に答えてうまく切り抜けることができそうになったところに本物の党員が出現して、あわや...、という物語である。

抱一庵は、nihilisit を無政府党と訳した。虚無党としても同じ。陳景韓は、抱一庵の無政府党を虚無党と理解して漢訳小説集『虚無党』に収録したというわけ。

では、日訳題名の「無政府党と一夜」が、なぜ陳景韓の手になると漢訳「白格氏」に変化するのか。

田口掬汀作「(露国奇聞)虚無党」を漢訳題名「加須克夫氏」にした。徳富蘆花(単行本は無署名)「大隠謀」を漢訳題名「綺羅沙夫人」にした。同じ理由だ。登場人物の名前である。

ロピンスンが会合で名前を呼ばれる場面を引用する(総ルビ省略)。

「扱てバーガー君、在英国の我会員の運動は」

原文 Berger を抱一庵は「バーガー」と訳した。このバーガーこそ無政府党のイギリス支部に属す本人だ。ロピンスンは、あくまでもバーガーに成りすまさなければならぬ。ということで陳景韓はバーガーを白格と漢訳し、題名を「白格氏」にした。

どうやら筋道が読めてきた。

小説林社の出版広告は、この「白格氏」が『奇獄二』に収録した「虚無党之秘密案」と同一だといっている。ただし、英文から翻訳したときその事実には気づかなかつたことを説明しているにすぎない。

言いかえよう。「白格氏」を収録した漢訳小説集『虚無党』は、1904年に開明書店から刊行されている。『奇獄二』は、それよりも遅く1907年に出版された。小説林社は、あとから同一作品を漢訳してしまったことを知った。ただし、日本語経由の重訳ではなく、自社の漢訳は直接英文から翻訳したことを強調した。私には、小説林社による強がりのように見える。なにしろ『奇獄一』は、日訳からの重訳なのだから。なぜ『奇獄二』のみ英文原作を強調するのか。

ドイル原作だとわかった瞬間に、『奇獄二』がマクワッター原作とは無関係であることが判明する。

『奇獄二』の正体

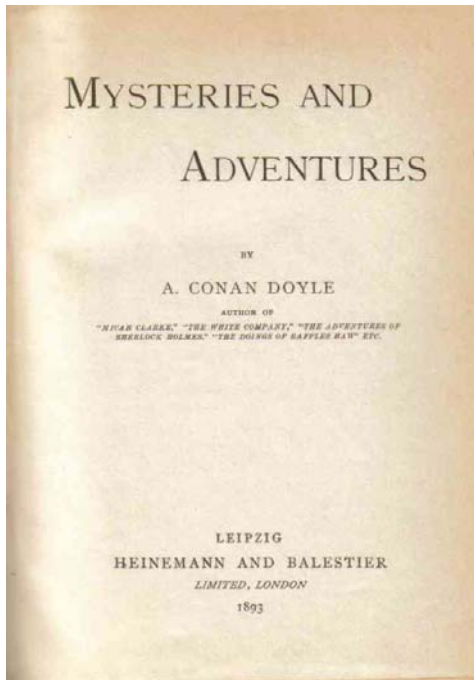
『奇獄二』の「白格氏」は、コナン・ドイルの作品だった。これは、ホームズ物語ではないということに注目してもいい。中国では、ホームズものが漢訳されるほとんど同時にホームズ系列外の作品も出現していたのだ。

あらためて『奇獄二』の収録作品の目次だけを見る。

「亜門特被殺案」「假死竊産案」「銀柄斧案」「虚無党之秘密会^{ママ}案」

これらのうち、題名から原作を推測できそうなものがもうひとつある。「銀柄斧案」は、たぶん “The Silver Hatchet” (“London Society”1883.12 Christmas Edition) だろう。

以上を考えあわせると、ドイル原作の作品集は、*MYSTERIES AND ADVENTURES*. 1889 ということになる。(書名を変更した *THE GULLY OF BLUEMANSDYKE, AND OTHER STORIES*. 1892、または *MY FRIEND THE MURDERER AND OTHER MYSTERIES AND ADVENTURES*, 1893 という可能性もあることをつけ加える)



1893年大陸版

残る2作品は、漢訳題名だけでは推測するのがむづかしい。作品を読まなければ解決しないと思う。

結論である。

『奇獄一』と『奇獄二』は、書名から関係がありそう見えるだけ。研究者は、その見た目にだまされた。実は、別々の外国作品を別人が漢訳したものだった。

1 『奇獄一』は、GEORGE McWATTERS, *DETECTIVES OF EUROPE AND AMERICA, OR LIFE IN THE SECRET SERVICE*. 1877 から千原日訳経由で漢訳された。

2 『奇獄二』は、収録4作品のうち2作品が ARTHUR CONAN DOYLE 作で(のち *MYSTERIES AND ADVENTURES*. 1889 収録) 英語原文によって漢訳された。

以上が資料をいくつか集めて得た現在の私の結論である。

『奇獄二』の原文を読むことができれば、もう少し詳しいことがわかるかもしれない。その時は、「結論検証篇」を書くことになるだろう(つづく)。 罫

補記：前稿注4について補足しておく。『小説林』に掲載された「新書紹介」がある。阿英はそれらをまとめ命名して「小説管窺録」とした。藤井得弘は、注3で示したその「小説管窺録」が1980年上海書店『小説林』には収録されていないと書く(藤井得弘「知りすぎた男 傲骨『砒石案』と中国初期探偵小説創作のジレンマ」『野草』第92号 2013.8.1. 90頁)。なくて当然。説明したとおり影印本を作るとき編集者が「新書紹介」を広告類だと認定して削除したからだ。藤井は雑誌の実物を見るべきだった。蛇足ながらつけ加える。

【注】

- 5) [編年 695] による。句読点、カッコ類は陳大康が施したものだだろう。カッコをつけるなら「《偵探談》増刊」ではなく「《偵探談増刊》」とするのがよい。今は[編年 695]のままにしておく。また、カッコ類をつけないままを[付日14-103]が収録する。こちらの方が正確だ。
- 6) [編年 695] 第一：白格氏、第二：綺羅紗夫人、第三：加須克夫氏
- 7) 沢本郁馬「「綺羅紗夫人」の原作」『清末小説から』第118号2015.7.1

馆藏电子资源 资源分类导航 中文数据库 试用数据库 外文数据库 特色数据库

学科信息参考 (1353) 闽台建筑文化专题数据库 (969)

林纾文化研究专题库 (835)

更多>>>

林纾文化研究(数据)库的建立与发展 困境新探

苏建新 刘垣

将林纾文化研究专题库打开后看到的页面：
(图2、林纾库首页)



摘要：由超星数字图书馆与闽工院合作，建立的林纾文化研究专题（特色数据）库，对福建工程学院的林纾研究一直大有裨益，但当前也存在着资料归属上混类、架构过于简单化等不少问题，亟待将来进一步加以解决、完善。

一、林纾研究网上专题库建设现状概述

福建工程学院是一所以工科为主的高校。林纾作为它的前身“苍霞精舍”的主要创办人，自从研究所成立以来，就受到了全校师生们的瞩目。建立这个林纾文化研究专题（数据）库，可谓学校图书馆对“人文林纾”的研究传播工作的积极回应，是一种非常值得推奖的盛事。

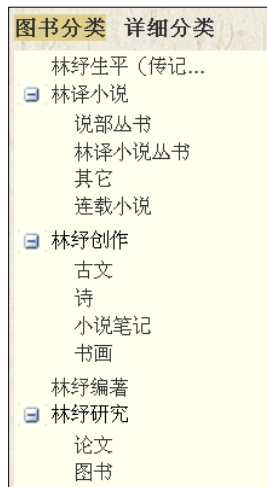
笔者在2013年复旦大学举办的中国古代小说、戏曲数字化国际会议上，曾经提交了一篇论文《林纾文化研究专题库的建设、不足与期望》。首次向海内外学者介绍了自己在林纾研究上的主要文献平台。

目前林纾数据库存在着只对校园网的用户开放登陆、使用权限的缺憾。如果是在校内的单位使用它，一般不需输入用户、密码。

为了更直观的了解，我们采用截图的方式显示。

该库的位置，在图书馆的首页“特色数据库”之中可以查到。图1、资源隶属

专题库内的图书资料主要分五类。打开“详细分类”，读者会看见更多。图3、林纾库结构及其分支



库中每一类图书以简目的方式呈现。图4、分类资源展开页面



一本图书被点开时的情形如下：(图5、具体资源的呈现方式)

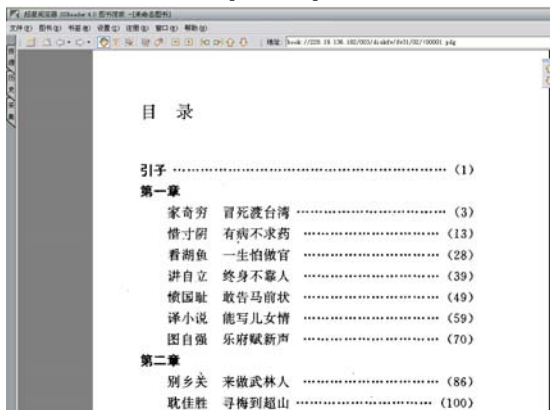
共有书目 1 种。当前为第 1 页 共 1 页			
排序方式: 按题名			
序号	题名	题名作者	条目来源
1	林纾	曾宪辉	福建工程学院

[1]

点击“题名”下的书籍后，出现一个弹出的窗口：(图6、浏览器提示页面)



点击“允许”后，会跳到超星阅览器的本书页面：(图7、资源[电子书]页面)



读者可根据自己的需要，复制有关页面或下载整部图书资料。

采用以上查询方式时极为便捷，为本校林纾研究工作的开展提供了优越的条件。笔者也因此成为足不出户，即可广收博采前人大量成果的VIP读者之一。

二、林纾研究专题数据库当前存在的几个问题

闽工院图书馆在林纾库创建伊始，即配有一名专职负责人员。其人已经发表论文《高校图书馆林纾文化特藏资源概况与展望——以福建工程学院为例》，介绍它的主要内容。

因为陈虹老师的论文已经缕叙了它的诸多优点，笔者在此不欲再做重复介绍。下面就主要谈谈自己在使用专题库过程中发现的问题与其不足吧。

一是混类现象时有发生。

本库收入两部题名《林纾诗文选》的电子扫描书，一为林纾女婿李家骥等人合编，一为福建师大曾宪辉独辑，却同时出现在“林纾生平”、“林纾创作”之中，随意性十分明显。

《巾幗阳秋》为林纾自己创作的小说，放入“林纾编著”中并不合适。一般在文献归属上，小说与论文都可标识为M(专著)。[1]

周松平主编中国近代名家名作宝库第5卷《严复·林纾卷》(第2版)，和内蒙古人民出版社的“近代名家名人文库”《林纾·左宗棠》一样属于作品类，置于“林纾研究”中明显不妥。

二是不少资料仅仅呈现简单堆积的形式，而未加任何科学分类。

林纾研究类，目前还未按照时间排列。从笔者近年搜集的资料看，每年的林纾论文超过百种，如果不依照时间排列，势必为查阅者增添不少麻烦。

“林纾创作”中的“书画”类也存在同样问题。这种《林纾书画集》，来源于笔者从网上搜到的数百张图片资料。分享给图书馆后，制作者与馆方仅仅简单打包后上传，每张图片的详细信息未能一一显示。使用者需要一一对照图画，方能找到题跋上提供的有关信息。如果字迹潦草，识认起来相当棘手。

三是林纾研究史上的有关重要资料匮乏，而且不便阅看。

林纾的《闽中新乐府》，钱钟书的《林纾的翻译》等重要作品、论著被漏收，后者在新浪爱问(weibo)、国学数典等网站上即可方便下载。林纾翻译的《伊索寓言》，是笔者在网上(挂靠

浙大的中英数字计划项目中的免费共享书籍) 弄到后提供给采编部, 然后再由超星挂在林纾库之中的。不过, 发现此书变成不支持下载的了。

有一段时间, 运用读秀引擎可以检索到馆藏樽本照雄先生赠送的《林纾研究论集》(与《林纾冤罪事件簿》), 然而在林纾数字文库中却觅不见该书身影。(超星的扫描读本可能迄今没有获准作者授权, 不敢公开提供给用户自由下载。)

林纾研究文库初建之时, 许多可以全文下载的书籍, 目前也变成了部分“试读”的稀缺藏本。令人不解, 何以对用户的限制变得越来越多?

三、完善林纾文库的建议

除了这个林纾研究网上书库之外, 工院还有商务印书馆四库全书编辑委员会帮助建设的“林纾文库”, 入藏了一套文津阁四库全书和商务捐赠的书籍(现归北区新图书馆皮藏, 一般读者只能浏览)。库内的林纾专柜, 曾经陈列有由超星根据电子书制作的林译小说等林氏作品一百余种(目前尚未在玻璃柜中展示)。这与网上数据库形成了有机互补关系。在未来的建设上, 笔者觉得有几点, 应该值得资源开发者进一步加以考虑。

首先, 现有的数字林纾文库的架构需要完善。

林纾网上文库, 应该由**作品与研究两大块**组成。第一部分可以包括林纾的翻译小说、古文、诗词、小说笔记、传奇、绘画、编著等。这是目前已经基本成型的部分。

每类之下还可再细化, 如翻译包括说部丛书、林译小说丛书、连载小说及其他。

林纾绘画上的成就显著, 网上或拍卖市场上随处可见琴南的大量画作、书法等墨迹。每幅作品至少应该做到像网上出售林画的相关信息那样齐备。如对《北斗洞》的著录:

纸本水墨设色 中国画 91.5×48cm

1922年林纾作

现藏北京中国美术馆

文字题识曰: “是洞旧名伏虎, 今易其名曰

北斗。道流居之洞顶, 高三十余丈, 中有楼阁五层。余以辛酉五月至, 宿阁上, 微雨蒙蒙, 凭阁视洞外诸峰, 杂立云中如樗蒲。入夜皆黑, 始无所见, 夜深静卧, 百虫皆绝, 余竟不知身之在何境也。壬戌五月补图并识。林纾。”

拍卖地点、时间、市价等可酌情介绍。

第二部分应为林纾研究文献, 主要收录期刊论文、研究著作, 报刊文章也可尽量纳入。这个部分目前的文献整理工夫最为薄弱, 仅仅分为著作与论文。港台及海外有关的研究资源被收藏的件数极其匮乏。如1966年韩迪厚提交香港大学的《严复、林纾、傅东华翻译检讨》, 民国九十年(2001)国立台湾师范大学吕立德的博论《林琴南古文理论研究》, 2012年美国牛津大学出版社的韩嵩文《林纾的文字制造厂》(Lin Shu Inc)等笔者掌握或获悉的资源, 都暂时告缺, 应该及时入库。

从学术性的角度审核这个平台, 第二部分的内容越齐备、周详, 林纾库的研究特色越能彰显。将来应该在大量搜集林纾作品元典的同时, 大力加强研究文献的建设工作。可以将其分支结构打造得更为精细、全面。与作品类对应的林纾文、艺、翻译、教育等各项成就, 均应有单独析出的研究论著(文章), 以利于用户便捷地按图索骥。

其次, 要对文库资料进行精细分类, 精确定位信息, 简化查阅过程。

现在网上林纾研究资料的堆积、混类现象, 应该及时纠正。林纾研究中的论文, 应该按照时间先后排列。笔者对近几年的林纾研究进行综述之后, 看到每年相关的论文都在百篇左右。如果在“论文”后再细分“2012年”、“2013年”子目, 一定会节省用户逐页麻烦翻找精力。

图4、图5上面提供的书目信息过于模糊, 也让搜寻过程复杂化, 并且不能随时“退回”(打开某个电子书, 要想回到原来的搜索页面, 结果却往往是分类的第一页)。

图5或图4中应该交待文献的具体出处, 如

《林纾》的出版年月或出版单位等数据，替换并无多少信息含量的所谓“条目来源”（有广告词嫌疑的“福建工程学院”），让用户能够在写作征引时对文献的真正来源一目了然。

有关读物，不能直接仿效上海图书馆的晚清民国期刊数据库资源那样一步到位，需照图6、图7依次下来，才能抵达，中间还插入了转到超星浏览器的环节（图6）。这与资源载体的非pdf类型相关。今后若能同时拥有非.png的电子书或电子文档，当能避免这种多道手续的繁杂。（用户当然也可在超星浏览器的状态下打开图书馆的林纾库，避免上述折腾。）

第三，资料的及时更新、补充工作要随时到位。

我们一直非常关注林纾库资源的扩容与不断升级。然而自从2009年建立以后，该库已经持续很长时间没有增添新的信息。有一阵子还出现在学校也打不开相关网页的现象。

在笔者的督促下，2014年专题库终于又进行了一次追加。更新前后的收藏数据对照如下：

其一，林纾生平（传记），收录了清末民初至当代有关林纾的个人传记，共计13种。目前增加至18种。

其二，林译小说。该类由说部丛书、林译小说丛书、连载小说、其它四个部分组成，收录以上海商务印书馆为主的林纾近代文献资料。

其中说部丛书34种，后来没有增加。

林译小说丛书26种，已添加一种。

连载小说95种，主要来源于20世纪初期的《小说月报》、《东方杂志》、《妇女杂志》等。小说皆以连载的方式呈现，许多为稀见作品，可以视为特色。已经添加到221种。（不过其中有《膜外风光·序》，也算一种，一时却打不开）

其它部分为文本残缺、卷帙遗失或者损坏等数据资源，但是又具有一定的研究价值，故而收归一处，共计193种。

其三，林纾创作。这一部分收录的乃是林纾个人创作的古文、诗词、笔记小说和书画，体现了林纾功力深厚的古典文化造诣与艺术修养。有

古文28种，诗选14种，笔记小说16种，书画3种。合计61种。

其四，林纾编著。多为林纾选评文集，以及一些由林纾编著的近代讲义，体现了林纾热心近代教育事业的一面，共计18种。前后数量未变。

其五，林纾研究。主要内容是近代与现当代学者研究林纾文化的学术成果，主要以学术论文和研究专著为主。其中论文共计554种，专著共计161种。[2]

以上五类的设置，应该说采纳了笔者早先的建议。**2009年初建库时只有以下简单结构：A说部丛书 29种，B林译小说丛书 26种，C民国丛书 22种，D其它 约8种。**

笔者近日查询到论文“当前分类共有图书115种”，增添了500多种。专著也变为“其他、图书”两类了。

四、发展瓶颈

对外我们虽然可以夸耀工院林纾研究资源的相对丰富与充实，然而仔细研究，却不难发现这个特色数据库存在的极端脆弱。

一是它的**严重依赖性**。打开林纾库，网页最底下的版权声明十分扎眼：

“power by 超星2006 ask@sslibrary.com
本站资源仅限图书馆内部非商业使用，严禁外传及不合理利用”。

笔者与有关馆员沟通后得知，资源提供方除了每年收取校方的（超星图书、读秀检索）购读费外，对林纾研究的数字资源拥有完全的所有权，不允许“外传”而复制等的“侵权”行为。

为了达到资源的严密掌控与管制，超星仅允许校内用户下载书籍到本机使用，换一台电脑就打不开。每书均有使用的期限，最初设定为一年，后来锐减到只有几个月了。

二是有与学术公器严重相悖的商业意识**层层渗透**。

笔者研究中一直令人不满意的资源更新问题, 据了解, 主要是制作方的原因。一旦要求进行相关的资料添加, 对方立刻就提及追加报酬的事。据说购买超星服务, 是按照每年几万元的协议执行的, 林纾库作为附带的增值业务, 他们并无义务满足使用方的更新请求(?)。

陈虹《高校图书馆林纾文化特藏资源~》一文提到林纾库的数据主要来源依据本馆所有的多个电子资源: 清华同方CNKI数据库、万方数据资源、人大复印资料、读秀学术搜索、中国数字图书馆、书生图书本地镜像等。“检索时间为1979年—2010年”。这是否意味着制作方并不承担后续资源的及时更新?

另外, 有关林纾的资源除了提供给工院使用外, 超星还将其中一些书、刊资源同样派送给了福州地区大学城的其他高校(如闽江学院、福建师大等)。

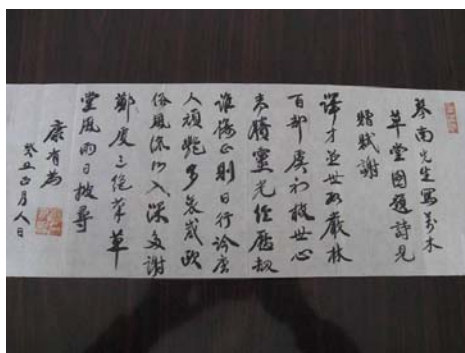
考虑林纾库目前存在的严重发展问题, 笔者认为除了继续督促合作方的精诚维护之外, 还要从**自己动手**的角度运思, 在独立自主、自力更生资源的方面做好文章。

在眼下这种资源被垄断、严重受制对方的困难条件之下, 工院的网上林纾专题库的生存形势相当严峻。今后迫切需要在超星的资源库之外, 另行开辟可以自我掌控的资源, 以方便研究者与广大师生更方便、轻松地获取资料。

未来需要在现有的“专题库”(姑曰林库1)之外, 再立林库2、林库3, 使其能与超星的资源形成互补, 以备应急之需。

工院不能局限于目前只能使用、代管资源的单一角色, 应该变主动为被动地成为后续资源的建设者。馆员中有人已经认识到福建省图书馆制作电子书的设备十分优良, 我们已有的珍贵文物收藏(如下文所附的康有为信函)也亟待加以整理, 那么为何不申请经费立项, 争取自己将来也能独立“生产”?

北京国学公司制作数据光盘的方式, 能一次性地将手上的资源刻录成盘。林纾之孙、北京的林大文先生生前告诉笔者: 天津一位林译小说研



[3]

究学者已将手头上的资料刻录为林纾研究光盘, 共收录80余种资料。樽本照雄先生现在已经有了不断更新的免费共享网版 <http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto/>《清末民初小说目録X》了。林纾翻译与创作的小说目録文献已被此书(含说明、本文2件)收罗殆尽。笔者曾蒙有关光盘馈赠。我们不妨借鉴一下, 看是否能将现有专题库上的资源全部备份到光盘上? 为了扩大影响, 也可与相关公司合作, 开发类似“国学宝典”的网络数据库, 提供给社会上相关人士有偿使用, 这样或能摆脱一味仰人鼻息的被动局面。

福建工程学院未来的林纾文化专题库建设及林琴南全集的出版, 深望业内专家、海内外学者指点迷津, 以臻理想与完善境地。 罍

参考文献

- [1] 林纾. 畏庐文集等 [M]. 民国丛书第四编94. 上海: 上海书店, 1992.
 - [2] 陈虹. 高校图书馆林纾文化特藏资源概况与展望: 以福建工程学院为例[M]. 长春师范学院学报, 2012(3), 182-185.
 - [3] 文传系. 林纾外孙李建先生再次向我校捐赠林纾文物 [EB/OL] <http://www.fjut.edu.cn/s/2/t/8/29/b3/info10675.htm>, 2012-12-31/2015-07-14.
 - [4] 鄢丽. 从林纾文化研究专题库建设谈图书馆特色馆藏开发与利用[M]. 福建图书馆理论与实践, 2013(2), 28-29.
- 作者刘垣(女), 福建工程学院信息与工程学院副教授。苏建新为福建省科学研究基地福建工程学院地方文献整理研究中心教授, 人文学院林纾研究中心负责人。

清末小説から

野間信幸氏よりご教示いただきました。感謝します

- 周 岷 試論偵探小説在清末民初中国的訳介情况
以《福爾摩斯探索集》為例 『文学界(理論版)』2012年第7期
- 姚 朝文 百年吳趸人研究的回顧与評價 『佛山科学技术学院学报(社会科学版)』第30卷第2期
2012.3 電字版
- 潘 少瑜 国恥痴情兩凄絶：林訳小説《不如帰》の国難論述与情感想像 台湾 『編訳論叢』第5卷第1期 2012.3
- 黎 子鵬 重構他界想像：晚清漢訳基督教小説《安樂家》(1882)初探 台湾 『編訳論叢』第5卷第1期 2012.3 電字版
- 竇 新光 日本近代小説《不如帰》在中韓両国の伝播及其影響 山東大学碩士論文 2012.5.12
- 林 元彪 魏易的翻譯 『外語教學理論与实践(FLLTP)』2012年第3期 2012.8.25
- 陸克寒、譚坤 『李伯元評伝』南京・鳳凰出版伝媒股份有限公司、江蘇人民出版社2012.12 常州清代文化研究叢書
- 楊 文瑜 『日本近代小説《不如帰》在中国的訳介与伝播』上海外国語大学2013.4 2013届博士学位論文
『不如帰』の近代漢訳史に関する考察
『東アジア日本語教育・日本文化研究』第16輯 2013.3.31
- 方 光鋭 民国初期の修身教科書における日本モデルへの依存 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻『言葉と文化』14
2013 電字版
- 余 致欣 『遇見福爾摩斯：以中國晚清時期與日本明治時期福爾摩斯探索翻譯為例』台湾師範大学国際漢学研究所学位論文 2013.1.1 電字版
- 馬 勇 林紓与新文学運動 『閩江学院学报』2013年第3期 2013.5
林紓与蔡元培の交鋒 “五四”前夕北大風雲(上) 『南方都市报』2013.6.26 電字版
- 曾健戎、劉耀華 『中国現代文壇筆名録(増補版)』重慶出版集團、重慶出版社2013.6
- 楊 玲 『林訳小説及其影響研究』広州・世界図書出版広東有限公司2013.12 / 2014.10 二次印刷
- 竇 新光 近代中韓両国における明治小説『不如帰』の受容様相について 文学体制の視点から(神戸大学)『海港都市研究』第9号 2014.3 電字版
- 吳仁華主編 『林紓読本』福州・海峡出版發行集團、福建教育出版社2014.4 蒼霞文庫
- 陸 楠楠 清末版權意識の萌動 《老残遊記》発表与行世の版權史意義 『新聞与伝播研究』2014年第7期 2014.7.25
《老残遊記》創作観念与小説結構の双重嬗变 『文学遺産』2015年第6期 2015.11.15
- 于 潤琦 《雜碎録》導読 楊曼青『雜碎録』北京・首都師範大学出版2014.8 明、清、民国時期珍稀老北京話歴史文献整理与研究
- 馮 蒸 《陳七奶奶》導読 (陸)瘦郎『陳七奶奶』北京・首都師範大学出版2014.8 明、清、民国時期珍稀老北京話歴史文献整理与研究
- 古二徳 (CÉSAR GUARDE-PAZ) ○【書評】 Wu Renhua ed. 吳仁華編 『Lin Shu duben : 林紓読本』(嶺南大学) 『JOURNAL OF MODERN LITERATURE IN CHINESE 現代中文文学報』第12卷第2号 2015 電字版
- CÉSAR GUARDE-PAZ ○ A Translator in the Shadows of Early Republican China Lin Shu's Position in Modern Chinese Literature an Overview “Monumenta Serica 華裔学志” Vol 63, No 1, 2015.3
- 古二徳 (CÉSAR GUARDE-PAZ) ○ LIN SHU'S UNIDENTIFIED TRANSLATIONS OF WESTERN LITERATURE “ASIAN CULTURE” 39 2015.8
- 喬以綱、宋声泉 近代中国小説興起新論 『中国社会科学』2015年第2期 2015 電字版
- 宋 声泉、馬勤勤 早期鴛鴦蝴蝶派与中国女性小説創作的発生 『中国現代文学文化現象与性別』南開大学出版2012.6 電字版
- 宋 声泉 林紓与《新青年》同人結怨考辨 『漢語言文学研究』2013年第4卷第3期(総第15期) 2013.9.15 電字版
『民初作為方法 文学革命新論』天津・南開大学出版2015.1 靈隱文叢
- 陳 大康 論近代翻譯小説 『文学評論』2015年第2期 2015.3.15
- 梁 艷 『清末民初における欧米小説の翻譯に関する研究 日本経由を視座として』花書院 2015.3.25 比較社会文化叢書 Vol. 33

- 楊文瑜 近代中国における『不如帰』の翻案作
『東アジア日本語教育・日本文化研究』第18
輯 2015. 3. 31
- 楊麗華 『林紓翻譯研究 基於費爾克拉夫話語分
析框架的視覚』 北京・中国社会科学出版社
2015. 5
- 張和龍主編 『英国文学研究在中国：英国作家研究』
上下卷 上海外語教育出版社2015. 5 外教社
外国文学研究叢書
- 夏曉虹 『晚清白話文与啓蒙讀物』香港・三聯書店
(香港)有限公司2015. 6
- 劉堃 『晚清文学中的女性形象及其伝統再構』
天津・南開大学出版社2015. 7 “性別視角下
的中国文学与文化”叢書
- 王曉鳳 『晚清科学小説記介与近代科学文化』 北
京・国防工業出版社2015. 7
- 林薇 『中国近代小説研究』 天津古籍出版社
2015. 7
- 王燕 《海上奇書》の整理再版与學術考察 『明
清小説研究』2015年第3期(總第117期)
2015. 7. 15
- 董志 試驗期短篇小説集的編刻及其現代性内涵
以《短篇小説叢刻》初編及二編為中心
『明清小説研究』2015年第3期(總第117期)
2015. 7. 15
- 中華書局編輯部編、童楊校訂 『孫宝瑄日記』上中下
冊 北京・中華書局2015. 8 中国近代人物日
記叢書
- 陳瑜 『情之嬗變 清末民初《茶花女》在中國
的翻譯与改写』 広州・暨南大学出版社
2015. 8
- 孫郁 清末民初的文学生態 『民国文学十五講』
太原・山西出版伝媒集團、山西人民出版社
2015. 8
新文学的起点 『民国文学十五講』太原・
山西出版伝媒集團、山西人民出版社2015. 8
旧派小説 『民国文学十五講』太原・山西
出版伝媒集團、山西人民出版社2015. 8
- 包立民 林紓家書和家教 『新文学史料』2015年第
3期(總第148期) 2015. 8. 22
- 黄誠 新發現的李涵秋の時評雜感 『新文学史
料』2015年第3期(總第148期) 2015. 8. 22
- 中野徹 【解題】包天笑『釧影樓回憶録』 『中国
文芸研究会会報』第406号 2015. 8. 31
- 神谷まり子 『九尾亀』から『九尾亀続集』へ 理
想の「ヒーロー」とミソジニーの人物像
『現代中国』第89号 2015. 9. 30
- 程華平 近代小説家の身份意識与小説創作の新変
『明清小説研究』2015年第4期(總第118期)
2015. 10. 15
- 『中国現代文学研究叢刊』2013年第2期(總第163期)
2013. 2. 15
- 晚清啓蒙運動の媒介鏡像与認同困境 從《杭州白話
報》到《中国白話報》趙林
『中国現代文学研究叢刊』2014年第2期(總第175期)
2014. 2. 15
- 伍光建对《簡愛》的通俗化改写李今
周瘦鵑“影戲小説”与民国初期文学新景觀.....陳建華
清末民初小説的翻譯及其文学史價值...湯哲声、朱全定
論新發現的李涵秋《我之小説觀》黄誠
『中国現代文学研究叢刊』2014年第9期(總第182期)
2014. 9. 15
- 從黄遵憲到梁啓超：中国小説理論建構的推演...周曉平
“五四”文学革命之前的小説語言狀況考論 以
1914-1916年的小説雜誌為中心陳迪強
『中国現代文学研究叢刊』2014年第12期(總第185期)
2014. 12. 15
- 論《月月小説》对《新小説》辦刊理念的承繼与偏移
.....李曉麗
『中国現代文学研究叢刊』2015年第4期(總第189期)
2015. 4. 15
- 新小説与旧体裁：《新小説》著訳作品論張蕾
另一種進化論 以威爾斯《星際戰爭》的晚清翻本為
例李松睿
由“推襟送抱”引發的文戰 成舍我、張春帆關於
《九尾亀》的論争張瑜
論施蛸存对鴛鴦蝴蝶派的評價王木青
『中国現代文学研究叢刊』2015年第8期(總第193期)
2015. 8. 15
- 通俗文学的伝統与網絡類型小説の歴史参照系
.....范伯群、劉小源
『中国現代文学研究叢刊』2015年第9期(總第194期)
2015. 9. 15
- 漢訳文学の学科位置及其編年考録の設想李今
『中国現代文学研究叢刊』2015年第10期(總第195期)
2015. 10. 15
- 評吳效剛的《民国時期查禁文学史論》王保生